

国語国文学科専門科目（令和3年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	概要	開放			
基幹科目	10010		国文学概論	②	30	1	前期	佐々木紀一	○		教養 教養 教養 教養			
	10020		国語学概論	②	30	1	前期	高橋 永行	○					
	10060		古典文学史	2	30	1・2	後期	岩原 真代	○					
	10070		近現代文学史	2	30	1・2	後期	岡 英里奈	○					
共通	10111		古典文学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	岩原 真代	原則として同一科目名のA Bをセットで（AとBとで担当者が同一のものを）履修すること					
	10112		古典文学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	岩原 真代						
	10121		古典文学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	齋藤 奈美						
	10122		古典文学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	齋藤 奈美						
	10131		古典文学基礎演習ⅢA	2	30	1	前期	佐々木紀一						
	10132		古典文学基礎演習ⅢB	2	30	1	後期	佐々木紀一						
	10143		近現代文学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	岡 英里奈						
	10144		近現代文学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	岡 英里奈						
	10151		近現代文学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	今井 瞳良						
	10152		近現代文学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	今井 瞳良						
	10161		国語学基礎演習ⅠA	2	30	1	前期	山本 淳						
	10162		国語学基礎演習ⅠB	2	30	1	後期	山本 淳						
	10171		国語学基礎演習ⅡA	2	30	1	前期	高橋 永行						
	10172		国語学基礎演習ⅡB	2	30	1	後期	高橋 永行						
	10181		論理と表現	2	30	1・2	前期	今井 瞳良			②	いずれか一つ履修	教養	
	10191	10193	国語表現法A	}	2	30	1・2	前期						高橋 永行
	10191	10194	国語表現法A		2	30	1・2	前期						山本 淳
10192	10195	国語表現法B	}	2	30	1・2	後期	高橋 永行						
10192	10196	国語表現法B		2	30	1・2	後期	山本 淳						
基礎科目	日本古典文学	10211	古典文学講読Ⅰ	2	30	1・2	前期	岩原 真代	○	前期開講（8～9月）				
		10221	古典文学講読Ⅱ	2	30	1・2	前期	齋藤 奈美						
		10231	古典文学講読Ⅲ	2	30	1・2	前期	佐々木紀一						
		10241	古典文学作品研究Ⅰ	2	30	1・2	後期	岩原 真代						
		10251	古典文学作品研究Ⅱ	2	30	1・2	後期	齋藤 奈美						
		10261	古典文学作品研究Ⅲ	2	30	1・2	後期	佐々木紀一						
		10271	古典文学特講Ⅰ	2	30	1・2	前期	岩原 真代						
		10281	古典文学特講Ⅱ	2	30	1・2	後期	岩原 真代						
		10291	古典文学特講Ⅲ	2	30	1・2	後期	佐々木紀一						
	日本近現代文学	10411	近現代文学講読Ⅰ	2	30	1・2	前期	岡 英里奈				②		
		10421	近現代文学講読Ⅱ	2	30	1・2	前期	今井 瞳良						
		10431	近現代文学作品研究Ⅰ	2	30	1・2	後期	岡 英里奈						
		10441	近現代文学作品研究Ⅱ	2	30	1・2	後期	今井 瞳良						
		10451	近現代文学特講Ⅰ	2	30	1・2	前期	岡 英里奈						
	10461	近現代文学特講Ⅱ	2	30	1・2	後期	今井 瞳良							
	国語学	10511	日本語文化論Ⅰ	2	30	1・2	前期	高橋 永行				④		
		10521	日本語文化論Ⅱ	2	30	1・2	後期	岡 英里奈						
10531		国語資料講読Ⅰ	2	30	1・2	前期	山本 淳							
10541		国語資料講読Ⅱ	2	30	1・2	後期	山本 淳							
10550		国語学特講	2	30	1・2	前期	山本 淳							
10560	日本語文書・表現プログラム	2	30	1・2	集中	田中 宣廣								
漢文学	10600	漢文学概説	2	30	1・2	前期	渡部東一郎	○						
	10611	漢文学講読	2	30	1・2	前期	渡部東一郎							
	10621	漢文学作品研究	2	30	1・2	後期	渡部東一郎							
	10631	漢文学専門ゼミⅠ	2	30	1	後期	渡部東一郎							
	10641	漢文学専門ゼミⅡ	2	30	2	前期	渡部東一郎							
	10650	漢文学特講	2	30	1・2	後期	渡部東一郎							
展開科目	共通	10711	古典文学演習ⅠA	2	30	2	前期	岩原 真代	④	原則として同一科目名のA Bをセットで（AとBとで担当者が同一のものを）履修すること				
		10712	古典文学演習ⅠB	2	30	2	後期	岩原 真代						
		10721	古典文学演習ⅡA	2	30	2	前期	佐々木紀一						
		10722	古典文学演習ⅡB	2	30	2	後期	佐々木紀一						
		10731	近現代文学演習ⅠA	2	30	2	前期	岡 英里奈						
		10732	近現代文学演習ⅠB	2	30	2	後期	岡 英里奈						
		10742	近現代文学演習ⅡA	2	30	2	前期	今井 瞳良						
		10743	近現代文学演習ⅡB	2	30	2	後期	今井 瞳良						
		10751	国語学演習ⅠA	2	30	2	前期	山本 淳						
	10752	国語学演習ⅠB	2	30	2	後期	山本 淳							
	10761	国語学演習ⅡA	2	30	2	前期	高橋 永行							
	10762	国語学演習ⅡB	2	30	2	後期	高橋 永行							
	10782	図書館文化論演習A	2	30	2	前期	北口己津子							
	10783	図書館文化論演習B	2	30	2	後期	北口己津子							
	10791	教育文化論演習A	2	30	2	前期	村瀬 桃子							
	10792	教育文化論演習B	2	30	2	後期	村瀬 桃子							
	関連科目	共通	10800	10801 書道（木曜Ⅲ限）	}	4	60	1・2				通年	我彦 芳柳	④
10800			10802 書道（木曜Ⅳ限）											
10910		伝統文化論	2	30	1・2	前期	岩原 真代	④	後期開講（2～3月） [日]と合同	教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養				
10920		有職故実	2	30	1・2	集中	田中 潤							
10930		民俗学概説	2	30	1・2	前期	岩鼻 通明							
10951		山形の郷土資料と文学	2	30	1・2	前期	石黒 志保							
10952		現代文化論	2	30	1・2	後期	今井 瞳良							
10960		東洋思想	2	30	1・2	前期	小野 卓也							
10970		現代社会と教育問題	2	30	1・2	後期	村瀬 桃子							
11120		11121 古文書学	}	2	30	1・2	後期				原 淳一郎	}	[日]「古文書学2」で読替 いずれか一つ履修	
11120		11122 古文書学												
11123		古文書学演習	2	30	2	前期	小林 文雄				[日]「古文書学3」で読替 「古文書学」を既修のこと			
11131		日本古代社会の歴史	2	30	1・2	前期	吉田 敏				[日]「日本史概説1」で読替			
11141		日本中世社会の歴史	2	30	1・2	前期	齋藤 寿樹				[日]「日本史概説2」で読替			
11151		日本近世社会の歴史	2	30	1・2	前期	小林 文雄				[日]「日本史概説3」で読替			
11160		日本文化史	2	30	1・2	後期	原 淳一郎				[日]「日本史概説6」で読替			
11171		視覚文化論	2	30	1・2	後期	小池 隆太				[日]と合同			
		卒業研究	4		2									

(注)・「○数字」は必修単位、「□○数字」は選択必修単位  
 ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる  
 ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

国語国文学科専門科目（令和2年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	概要	開放			
基幹科目	10040 10050		国文学概論	②	30	1	前期	佐々木紀一	○	「古典文学史」で読替 「近現代文学史」で読替	教養 教養 教養 教養			
			国語学概論	②	30	1	前期	高橋 永行	○					
			国文学史一	2	30	1・2	後期	岩原 真代	○					
			国文学史二	2	30	1・2	後期	岡 英里奈	○					
共通			国文学基礎演習一	4	60	1	通年	岩原 真代	④	「古典文学基礎演習ⅠA・B」両方で読替 「古典文学基礎演習ⅡA・B」両方で読替 「古典文学基礎演習ⅢA・B」両方で読替 「近現代文学基礎演習ⅠA・B」両方で読替 「近現代文学基礎演習ⅡA・B」両方で読替 「国語学基礎演習ⅠA・B」両方で読替 「国語学基礎演習ⅡA・B」両方で読替				
			国文学基礎演習二	4	60	1	通年	齋藤 奈美						
			国文学基礎演習三	4	60	1	通年	佐々木紀一						
			国文学基礎演習四（火曜Ⅳ限）	4	60	1	通年	岡 英里奈						
			国文学基礎演習四（木曜Ⅲ限）	4	60	1	通年	岡 英里奈						
			国文学基礎演習五	4	60	1	通年	馬場 重行						
			国語学基礎演習一	4	60	1	通年	山本 淳						
			国語学基礎演習二	4	60	1	通年	高橋 永行						
	10181		論理と表現	2	30	1・2	前期	今井 瞳良				○	令和2年度入学生から適用	教養
	10190	10191	国語表現法（月曜Ⅳ限）	4	60	1・2	通年	高橋 永行				○	「国語表現法A・B」両方で読替 いずれか一つ履修	
10190	10192	国語表現法（火曜Ⅲ限）												
基礎科目	国文学		国文学講読一	2	30	1・2	前期	岩原 真代	④	「古典文学講読Ⅰ」で読替 「古典文学講読Ⅱ」で読替 「古典文学講読Ⅲ」で読替 「近現代文学講読Ⅰ」で読替 「近現代文学講読Ⅱ」で読替 「古典文学作品研究Ⅰ」で読替 「古典文学作品研究Ⅱ」で読替 「古典文学作品研究Ⅲ」で読替 「近現代文学作品研究Ⅰ」で読替 「近現代文学作品研究Ⅱ」で読替				
			国文学講読二	2	30	1・2	前期	齋藤 奈美						
			国文学講読三	2	30	1・2	前期	佐々木紀一						
			国文学講読四	2	30	1・2	前期	岡 英里奈						
			国文学講読五	2	30	1・2	前期	今井 瞳良						
			国文学講読六	2	30	1・2	後期	岩原 真代						
			国文学講読七	2	30	1・2	後期	齋藤 奈美						
			国文学講読八	2	30	1・2	後期	佐々木紀一						
			国文学講読九	2	30	1・2	後期	岡 英里奈						
			国文学講読十	2	30	1・2	後期	今井 瞳良						
	国文学特講一	2	30	1・2	前期	岩原 真代	②	「古典文学特講Ⅰ」で読替 「古典文学特講Ⅱ」で読替 「古典文学特講Ⅲ」で読替 「近現代文学特講Ⅰ」で読替 「近現代文学特講Ⅱ」で読替						
	国文学特講二	2	30	1・2	後期	岩原 真代								
	国文学特講三	2	30	1・2	後期	佐々木紀一								
	国文学特講四	2	30	1・2	前期	岡 英里奈								
	国文学特講五	2	30	1・2	後期	今井 瞳良								
国語学			国語学講読一	2	30	1・2	前期	山本 淳	④	「国語資料講読Ⅰ」で読替 「日本語文化論Ⅰ」で読替 令和2年度入学生から適用 「国語資料講読Ⅱ」で読替 本年度開講せず				
			国語学講読二	2	30	1・2	前期	高橋 永行						
			日本語文化論Ⅱ	2	30	1・2	後期	岡 英里奈						
			国語学講読三	2	30	1・2	後期	山本 淳						
			国語学講読四	2	30	1・2	後期	高橋 永行						
			国語学特講	2	30	1・2	前期	山本 淳						
		日本語文書・表現プログラム	2	30	1・2	集中	田中 宣廣	○	前期開講（8～9月）					
漢文学			漢文学概説	2	30	1・2	前期	渡部東一郎	○	「漢文学講読」で読替 「漢文学作品研究」で読替				
			漢文学講読一	2	30	1・2	前期	渡部東一郎						
			漢文学講読二	2	30	1・2	後期	渡部東一郎						
			漢文学特講	2	30	1・2	後期	渡部東一郎						
			漢文学専門ゼミ一	2	30	1	後期	渡部東一郎						
		漢文学専門ゼミ二	2	30	2	前期	渡部東一郎	○	「漢文学専門ゼミⅡ」で読替					
展開科目	共通		国文学演習一	4	60	2	通年	岩原 真代	④	（応用）「古典文学演習ⅠA・B」両方で読替 本年度開講せず （応用）「古典文学演習ⅡA・B」両方で読替 （応用）「近現代文学演習ⅠA・B」両方で読替 （応用）「近現代文学演習ⅡA・B」両方で読替 （応用）「国語学演習ⅠA・B」両方で読替 （応用）「国語学演習ⅡA・B」両方で読替 （応用）「図書館文化論演習A・B」両方で読替 （応用）「教育文化論演習A・B」両方で読替				
			国文学演習二	4	60	2	通年	石黒 志保						
			国文学演習三	4	60	2	通年	佐々木紀一						
			国文学演習四	4	60	2	通年	岡 英里奈						
			国文学演習五	4	60	2	通年	今井 瞳良						
			国語学演習一	4	60	2	通年	山本 淳						
			国語学演習二	4	60	2	通年	高橋 永行						
			図書館文化論演習	4	60	2	通年	北口己津子						
			教育文化論演習	4	60	2	通年	村瀬 桃子						
関連科目	共通	10800	10801	書道（木曜Ⅲ限）	4	60	1・2	通年	我彦 芳柳	④	いずれか一つ履修	教養 教養		
		10800	10802	書道（木曜Ⅳ限）										
				伝統文化論	2	30	1・2	前期	岩原 真代				後期開講（2～3月） [日]と合同 「山形の郷土資料と文学」で読替 令和2年度入学生から適用 [日]は専門単位[英・社]は教養単位	
				有職故実	2	30	1・2	集中	田中 潤					
				民俗学概説	2	30	1・2	前期	岩鼻 通明					
				山形の文学	2	30	1・2	前期	石黒 志保					
				現代文化論	2	30	1・2	後期	今井 瞳良					
				東洋思想	2	30	1・2	前期	小野 卓也					
				現代社会と教育問題	2	30	1・2	後期	村瀬 桃子					
				英米文化論	2	30	1・2	前期	小林 垂希					
			11121	古文書学	2	30	1・2	後期	原 淳一郎					[日]「古文書学2」で読替 いずれか一つ履修
			11122	古文書学										
				古文書学演習	2	30	2	前期	小林 文雄					[日]「古文書学3」で読替 「古文書学」を既修のこと
				日本史概説一	2	30	1・2	前期	吉田 敏					「日本古代社会の歴史」で読替 [日]「日本史概説1」で読替
				日本史概説二	2	30	1・2	前期	藪部 寿樹					「日本中世社会の歴史」で読替 [日]「日本史概説2」で読替
				日本史概説三	2	30	1・2	前期	小林 文雄					「日本近世社会の歴史」で読替 [日]「日本史概説3」で読替
				日本文化史	2	30	1・2	後期	原 淳一郎					[日]「日本史概説6」で読替
		コミュニケーションデザイン論	2	30	1・2	後期	小池 隆太	[社]と合同 [社]「視覚文化論」で読替						
		卒業研究	4	2										

(注)・「○数字」は必修単位、「}○数字」は選択必修単位  
 ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる  
 ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

講義科目名称：国文学概論（10010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
佐々木 紀一			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	学ぶ対象と意義、その範囲、考え始めると難しいのですが、国文学（に限らず文学）とは何か、文学の対象、価値、構成、成立、技法、批評法について、全般的に理解を深めましょう。
授業計画	<p>第1回 今、そしてこれからの世界で、文学を読む意味（「有益かつ快樂」？）</p> <p>第2回 文学と文学以外（文学は言語の特別な構築物？）</p> <p>第3回 国文学の対象（範囲と価値）</p> <p>第4回 国文学の諸ジャンル</p> <p>第5回 国文学の成立（古典）</p> <p>第6回 国文学の成立（近代文学 - 作家論について）</p> <p>第7回 作家なんて（ ）に入れろ！（1）ロシア・フォルマリズム、ニュークリティシズム、神話批評</p> <p>第8回 作家なんて（ ）に入れろ！（2）受容理論、解釈学</p> <p>第9回 作家なんて（ ）に入れろ！（3）記号論、脱構築</p> <p>第10回 作家なんて（ ）に入れろ！（4）精神分析批評</p> <p>第11回 全てを歴史化しろ！（1）ポスト・コロニアル、フェミニズム批評</p> <p>第12回 全てを歴史化しろ！（2）ニューヒストリシズム</p> <p>第13回 文学の技巧（1）ロッジ『小説の技巧』から（1）</p> <p>第14回 文学の技巧（2）ロッジ『小説の技巧』から（2）</p> <p>第15回 再び（国）文学を読む意味</p>
授業概要	前半は文学を読む意味、文学の対象（範囲）、価値、成立について、後半は批評の理論、技巧について学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	参考書の廣野さんの著書の精読 作品は指定しませんが、各ジャンルの文学作品を読む
テキスト	特になし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	知識詰め込みはしません。じっくり考えましょう。皆さんが今後、文学を友として生きていけますように。
評価方法	レポート（100%）
参考文献	廣野由美子「批評理論入門ー『フランケンシュタイン』解剖講義」（中公新書） D. ロッジ『小説の技巧』が面白く、分かりやすいです。さらに深めたい人は、T. イーグルトン『文学とは何か（上）・（下）』（岩波文庫）が良いです。
備考	

講義科目名称：国語学概論（10020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
高橋 永行			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	国語学は、日本語ということばそのものを研究対象とする学問分野です。この授業はその入門的性格をもつもので、現代日本語の構造や体系についての概要を学びます。
授業計画	<p>第1回 人間の言語の特徴と機能（導入） 言語の機能</p> <p>第2回 日本語の語彙1 ことばと社会</p> <p>第3回 日本語の語彙2 表現とイメージ</p> <p>第4回 日本語の語彙3 語彙とは何か 体系と量</p> <p>第5回 日本語の語彙4 語彙の出自と分類</p> <p>第6回 日本語の文法1 文法規則の正しさと適格さ</p> <p>第7回 日本語の文法2 言語行動と敬語 「は」と「が」情報の新旧・主題と主語</p> <p>第8回 文字表記1 文字の機能と体系</p> <p>第9回 文字表記2 漢字と仮名</p> <p>第10回 文字表記3 仮名とローマ字</p> <p>第11回 文字表記4 国語政策と表記法</p> <p>第12回 日本語の位置 世界の言語と日本語の違い</p> <p>第13回 日本語の系統 言語系統表</p> <p>第14回 類型論から見た日本語 言語の構造</p> <p>第15回 まとめ 試験</p>
授業概要	今年は、言語の特質、日本語の語彙、日本語の文法、表記法、世界の中での日本語の位置を取り上げて講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業を踏まえてテキストを読み返し、配付資料を整理して、要点を理解するように努めてください。
テキスト	『新 ここからはじまる日本語学』ひつじ書房 1, 800円＋税 さわらび会購買部で求めてください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	まずは「ことばに対する素朴な疑問」を持つことから始めましょう。テキストと同様にことばに関する新聞報道も取り上げる場合があります。
評価方法	試験30%、課題の提出60%、授業への参加度10%
参考文献	
備考	Microsoft teams を併用します。チームコードは初回の講義で通知し、メンバーに参加してもらいます。

講義科目名称：古典文学史（10060）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
岩原 真代			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	上代から近世にかけての文学史を概観しながら、名作・名文を読解する。古典文学史を通して、日本人の精神史をたどり、各作品の主題と意義を理解する。
授業計画	<p>第1回 古典文学史概説</p> <p>第2回 上代文学（神話の世界、古事記）</p> <p>第3回 上代文学（日本書紀、風土記）</p> <p>第4回 上代文学（万葉集1）</p> <p>第5回 上代文学（万葉集2、懐風藻ほか）</p> <p>第6回 中古文学（概観、漢詩文）</p> <p>第7回 中古文学（和歌、古今和歌集）</p> <p>第8回 中古文学（八代集、歌合、歌論）</p> <p>第9回 中古文学（前期物語、源氏物語）</p> <p>第10回 中古文学（後期物語、歴史物語）</p> <p>第11回 中古文学（日記文学、随筆）</p> <p>第12回 中古文学（説話、歌謡）</p> <p>第13回 中世文学（和歌、連歌）</p> <p>第14回 中世文学（物語、説話、芸能）</p> <p>第15回 近世文学（小説、俳諧）</p>
授業概要	テキストと補足資料に沿って、上代から近世に至る文学作品を、年代順に読解、紹介していきます。文学作品の相互の関係性と受容史を意識しながら進めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	文学作品がどのように成立し、また、後世の作品にどのような影響を及ぼしたのかを意識しながら文学史を理解して下さい。また、藤原定家撰の百人一首は、上代から中世にかけての歌人・文人の名歌が時代順に配列され、文学史の流れを確認できます。是非暗唱して下さい。
テキスト	秋山虔・三好行雄編『新日本文学史』文英堂、650円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古典文学史を通して日本とは何かを考えます。古典を知るとは現代に生きる我々自身を考えることに通じます。古典の名作、名文に親しむことで日本人の精神のルーツと変遷を確かめてみて下さい。
評価方法	期末試験（90%）、授業への参加度（10%）で評価する。（期末試験には百人一首の暗唱を含む。）
参考文献	久保田淳ほか編『岩波講座日本文学史』全10巻、岩波書店 加藤周一『日本文学史序説 上・下』（加藤周一著作集4・5）、筑摩書房 久保田淳編『日本文学史』おうふう、1997年 ほか。
備考	

講義科目名称：近現代文学史（10070）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
岡 英里奈			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本近現代文学の歴史について、小説作品を中心に概観する。各時代に生まれた文学が、何を問題とし、どのような表現を目指したのか、その大まかな流れを掴む。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 近代国家成立と文学改良</p> <p>第3回 日清・日露戦争期の文学</p> <p>第4回 自然主義文学の成立</p> <p>第5回 反自然主義文学の展開</p> <p>第6回 白樺派と青鞥社の文学</p> <p>第7回 新現実主義文学の展開</p> <p>第8回 プロレタリア文学運動の盛衰</p> <p>第9回 新感覚派の文学</p> <p>第10回 転向と文芸復興、戦時下の文学</p> <p>第11回 戦後文学の出発と展開</p> <p>第12回 高度経済成長期の文学①</p> <p>第13回 高度経済成長期の文学②</p> <p>第14回 ポスト冷戦期の文学</p> <p>第15回 ポスト3・11の文学・全体のまとめ</p>
授業概要	テキストに沿って主要な作家名や作品名、文芸思潮、文学結社などを押さえつつ、具体的な作品を適宜抜粋して紹介する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で言及した作品を自主的に読む。
テキスト	秋山虔・三好行雄編著『新日本文学史』文英堂、650円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	文学史の授業はどうしても抽象的な思潮や概念の説明が主となります。が、なるべく具体的な作品のおもしろさを伝えられるように努めます。授業で言及する作品のほとんどは、合同研究室や図書館に置いてあります。ぜひ多くの作品を、実際に手にとって読んでみてください。
評価方法	期末試験（90%）、授業への参加度（10%）で評価する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：古典文学基礎演習 I A (10111)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	『源氏物語』第1帖「桐壺」巻の輪読を通して、平安文学の世界を探究する。『源氏物語』の本文、成立、享受史などを概観した上で、作品読解から平安時代の宮廷文化や平安貴族の生活環境、歴史的背景や作中人物造型、『白氏文集』「長恨歌」引用のあり方などを理解し、後期の研究発表のための素養を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 平安文学概説</p> <p>第2回 『源氏物語』概説1（文学史的達成とその意義）</p> <p>第3回 『源氏物語』概説2（本文、注釈史、享受史、作者論）</p> <p>第4回 『源氏物語』「桐壺」巻の読解－桐壺更衣の登場をめぐって－</p> <p>第5回 「桐壺」巻の読解－桐壺更衣の家族構成、皇子誕生－</p> <p>第6回 「桐壺」巻の読解－若君の袴着、『白氏文集』「長恨歌」の読解と引用関係－</p> <p>第7回 「桐壺」巻の読解－桐壺更衣の死と葬送－</p> <p>第8回 「桐壺」巻の読解－桐壺帝の悲嘆と弔問－</p> <p>第9回 「桐壺」巻の読解－鞍負命婦の弔問、若君の幼少期－</p> <p>第10回 「桐壺」巻の読解－高麗人の相人の予言－</p> <p>第11回 「桐壺」巻の読解－藤壺の桐壺帝後宮への入内－</p> <p>第12回 「桐壺」巻の読解－光源氏の元服と結婚－</p> <p>第13回 「桐壺」巻の読解－左大臣家の家族関係－</p> <p>第14回 帚木三帖（「帚木」「空蟬」「夕顔」巻）の読解</p> <p>第15回 帚木三帖の読解、まとめ</p>
授業概要	『源氏物語』「桐壺」巻は、桐壺帝と桐壺更衣の道ならぬ情愛や光源氏の誕生悲話、臣籍降下、藤壺の入内などが語られる、全54帖の核となる巻です。作品の読解を通じて作中人物造型や関係性、主題を考察し、理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	事前に担当場面と注釈を読み込み、場面の要約と要点確認をして授業に臨むこと。
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語 第1巻』（角川ソフィア文庫）、800円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『源氏物語』には900年の研究史があり、文学研究が最も進んでいる作品です。その研究方法を身に付けると、他作品の読解の際にも応用が利くようになります。物語の輪読を通して平安文学に親しみ、正確な鑑賞力、研究力を養いましょう。質疑応答を含め、積極的な授業への参加を望みます。
評価方法	レポート（70%）、授業への参加の度合い（30%）等で評価する。
参考文献	『新編日本古典文学全集 源氏物語①～⑥』小学館 玉上琢彌『源氏物語評釈』全12巻、角川書店 林田孝和他編『源氏物語事典』大和書房 その他、授業時に指示します。
備考	

講義科目名称：古典文学基礎演習 I B (10112)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	『源氏物語』第5帖「若紫」巻の輪読と研究発表を通して、物語世界に親しみ、古典文学研究の基礎的な方法とプレゼンテーション能力、文章構成力を養います。
授業計画	<p>第1回 『源氏物語』 「若紫」巻の輪読発表・例1－光源氏の病と北山の聖－</p> <p>第2回 「若紫」巻の輪読発表・例2－光源氏の北山探訪－</p> <p>第3回 「若紫」巻の輪読発表－供人の世間話①、諸国の噂－</p> <p>第4回 「若紫」巻の輪読発表－供人の世間話②、明石一族の噂－</p> <p>第5回 「若紫」巻の輪読発表－小柴垣の垣間見①、若紫の登場－</p> <p>第6回 「若紫」巻の輪読発表－小柴垣の垣間見②、北山の人々の様子－</p> <p>第7回 「若紫」巻の輪読発表－僧都の房に宿る①、北山の僧都との対面－</p> <p>第8回 「若紫」巻の輪読発表－僧都の房に宿る②、北山の尼君との贈答歌－</p> <p>第9回 「若紫」巻の輪読発表－僧都の房に宿る③、北山の人々との交渉－</p> <p>第10回 「若紫」巻の輪読発表－別れの挨拶①、北山の人々との別れの宴－</p> <p>第11回 「若紫」巻の輪読発表－別れの挨拶②、光源氏の弾琴－</p> <p>第12回 「若紫」巻の輪読発表－御所と左大臣邸に行く光源氏－</p> <p>第13回 「若紫」巻の輪読発表－若紫への文通－</p> <p>第14回 「若紫」巻の輪読発表－藤壺宮との密事－</p> <p>第15回 『源氏物語』研究の諸相、まとめ</p>
授業概要	『源氏物語』 「若紫」巻は、18歳の光源氏が、加持祈祷のために訪れた北山で、最愛の伴侶となる若紫に出会い、その引き取りを交渉する巻です。また、藤壺との密会や正妻・葵の上との不和など多くの問題を孕んでいます。個人の輪読発表と研究発表を通して、物語世界を理解し、味読します。
実務経験及び授業の内容	注釈を用いた古典文学の読解は古典文学研究の基礎です。『源氏物語』の研究方法を身に付ければ、他作品の研究にも応用が利くようになります。輪読発表を通じて物語の主題と作中人物造型を明らかにし、正確な鑑賞力、研究力を身に付けましょう。質疑応答を含め、積極的な授業への参加を望みます。
時間外学習	輪読発表・研究発表は、事前に2・3週間かけて担当場面を読み込み、調査・研究を深めて下さい。発表の一週間前には事前指導を受けて下さい。
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語 第1巻』（角川ソフィア文庫）、800円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	
評価方法	研究発表（30％）、レポート（60％）、授業への参加の度合い（10％）で評価する。
参考文献	『新編日本古典文学全集 源氏物語①～⑥』小学館 玉上琢彌『源氏物語評釈』全12巻、角川書店 林田孝和他編『源氏物語事典』大和書房 その他、授業時に指示します。
備考	



講義科目名称：古典文学基礎演習ⅡA（10112）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 古典文学読解ための基礎的な知識を身につける。 2. 辞書、索引、関連図書などを使って調査する方法を身につける。 3. 調べたことをもとに、自らの意見を組み立て、発表する方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(辞書・文献などの使い方、発表資料の作成方法について) 『伊勢物語』概説①「『伊勢物語』の時代と在原業平」「書名と成立」</p> <p>第2回 『伊勢物語』概説②『伊勢物語』と『古今和歌集』 「成立論について」</p> <p>第3回 『伊勢物語』講読「初冠」(初段) ※「講読」は教員による講義形式で行う。以下同じ。</p> <p>第4回 『伊勢物語』講読「二条后章段」①(第三段・第四段)※(第6回の資料提出)</p> <p>第5回 『伊勢物語』講読「二条后章段」②(第五段・第六段)</p> <p>第6回 『伊勢物語』演習「筒井筒」①(第二十三段) ※受講生全員で分担(語釈・現代語訳)して発表</p> <p>第7回 『伊勢物語』演習「筒井筒」②(第二十三段) ※受講生全員で内容について議論</p> <p>第8回 『伊勢物語』講読「二条后章段」③(第六十五段)</p> <p>第9回 『伊勢物語』演習「東下り章段」①(第七段第八段) ※「演習」は担当者による発表と出席者による質疑応答の形式で行う。以下同じ。</p> <p>第10回 『伊勢物語』演習「東下り章段」②(第九段)「東国章段」①(第十段)</p> <p>第11回 『伊勢物語』演習「東国章段」②(第十一段～第十三段)</p> <p>第12回 『伊勢物語』演習「陸奥国章段」(第十四段第十五段)</p> <p>第13回 『伊勢物語』演習「二条后後日譚」(第二十六段第二十九段)</p> <p>第14回 『伊勢物語』演習「狩使章段」(第六十九段第七十段)</p> <p>第15回 『伊勢物語』演習「伊勢国章段」(第七十一段第七十二段第七十五段)</p>
授業概要	『伊勢物語』の概要について学んだ後、各段を読んでいきます。発表担当者が調べ、考察したことについて報告した後、他の人から質問・意見を受け、討論する演習形式で進める予定です。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	演習の発表担当者は、担当する段の語句、和歌などについて調べ、レジュメを作成すること。担当以外の学生はその段をあらかじめ読み、内容を理解しておくこと。
テキスト	石田穰二訳注『伊勢物語』（角川ソフィア文庫）税込価格792円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『伊勢物語』は和歌とその和歌をめぐる物語からなる短い章段、百二十五段で構成されています。和歌の解釈、章段ごとの解釈、『伊勢物語』の中での解釈、『古今和歌集』『大和物語』との比較など、さまざまに読むことができるおもしろさを感じ取ってほしいと思います。毎時全員に発言を求めますので、予習して授業に臨んで下さい。
評価方法	発表・討論における発言・出席（80%）、レポート（20%）
参考文献	授業中に指示します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古典文学読解ための基礎的な知識を身につける。</li> <li>2. 辞書、索引、関連図書などを使って調査する方法を身につける。</li> <li>3. 調べたことをもとに、自らの意見を組み立て、発表する方法を学ぶ。</li> <li>4. 自分が考察したことをレポートにまとめる方法を学ぶ。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 『伊勢物語』 講読 「惟喬親王章段」①(第八十二段)</p> <p>第2回 『伊勢物語』 講読 「惟喬親王章段」②(第八十三段・第八十五段)</p> <p>第3回 『伊勢物語』 演習 「実名章段」(第十六段・第三十九段・第百一段など)</p> <p>第4回 『伊勢物語』 演習 「梓弓」(第二十四段)</p> <p>第5回 『伊勢物語』 演習 「むかしの若人」(第四十段)</p> <p>第6回 『伊勢物語』 演習 「行く蛩」(第四十五段)</p> <p>第7回 『伊勢物語』 演習 「花橘」(第六十段)</p> <p>第8回 『伊勢物語』 演習 「つくも髪」(第六十三段)</p> <p>第9回 『伊勢物語』 演習 「二条后章段」(第七十六段・第九十五段)</p> <p>第10回 『伊勢物語』 演習 「翁章段」(第七十六段～第七十九段・第百十四段)</p> <p>第11回 『伊勢物語』 演習 「さらぬ別れ」(第八十四段)</p> <p>第12回 『伊勢物語』 演習 「絵かく女」(第九十四段)</p> <p>第13回 『伊勢物語』 演習 「斎宮章段」(第百二段・第百四段)</p> <p>第14回 『伊勢物語』 演習 「陸奥国章段」(第百十五段・第百十六段)</p> <p>第15回 『伊勢物語』 演習 「つひにゆく道」(第百二十四段・第百二十五段)</p>
授業概要	発表担当者が調べ考察したことを報告した後、他の人から質問・意見を受け、討論する演習形式で進めます。自分の解釈、意見を説得的に述べるには、何を根拠にあげればよいのか、どの表現・語句に注目して論を展開すればよいのか、実践の中で学んでいくことを目指します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	演習の発表担当者は、担当する段の語句、和歌などについて調べ、テーマを決めて考察し、レジュメを作成すること。担当者以外の者はその段をあらかじめ読み、内容を理解し、自分なりの解釈を述べられるようにしておくこと。
テキスト	石田穰二訳注『伊勢物語』（角川ソフィア文庫）税込価格792円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『伊勢物語』の「男」はどのような人物と捉えられるか。「“男”の一代記」に当てはまらない段をどう考えるか。和歌の解釈と物語の関係をどう考えるか……など、各段の解釈にとどまらず、『伊勢物語』という物語の解釈に迫って欲しいと思います。毎時全員に発言を求めますので、予習して授業に臨んで下さい。
評価方法	発表・討論における発言・出席（60%）、年度末レポート（40%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：古典文学基礎演習ⅢA（10131）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古典文法の復習もかね、古典学習の方法を学び、和歌を中心に古典の読解を発展させます。
授業計画	<p>第1回 導入 藤原公重と『風情集』述懐百種について</p> <p>第2回 古典文法概観・古典読解の諸道具（辞書・辞典・図書館・検索法）について</p> <p>第3回 古典和歌の世界、修辞について</p> <p>第4回 和歌の歴史1（万葉～平安時代）</p> <p>第5回 和歌の歴史2（鎌倉～江戸時代）</p> <p>第6回 受講生の発表1（古今集より）</p> <p>第7回 受講生の発表2（和泉式部集より）</p> <p>第8回 受講生の発表3（山家集より）</p> <p>第9回 受講生の発表4（風情集より）</p> <p>第10回 受講生の発表5（風情集より）</p> <p>第11回 受講生の発表6（風情集より）</p> <p>第12回 受講生の発表7（風情集より）</p> <p>第13回 和歌の詠作1</p> <p>第14回 和歌の詠作2</p> <p>第15回 和歌の詠作3</p>
授業概要	平安時代後期の歌人藤原公重の歌集『風情集』末尾の百首は、あたかも自虐・ウツの感情に満ち満ちた大変ユニークな和歌です。勿論、平安和歌ですから、平安時代を基とする「古典文法」と修辞に基づいてをります。授業では、この作品に限らず、古典作品を読む為の参考図書、辞書等の利用方を学び、次に入門として『古今集』他、また『風情集』の他の箇所より、一般的な和歌を取り上げます。各自、宛てられた和歌を読み解き、その意味、技法を発表します。更に王朝風和歌を詠んでみましょう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	常に文法書、古語辞典を携帯し、古典を読む。対象が平安和歌なので、古今和歌集がおすすめ。
テキスト	コピーを配ります。高校で利用した古典文法、古語辞書必携（電子辞書はお勧めしません）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	吾と云へば人の言葉はあらち山かくては何と生まれこしちぞ 「私が…」といふと他人の言葉は荒いのです（荒らしと愛発山が懸詞）。この様な状況では、どうして私は生まれてきたのだらう（と歎かれます）（来しと越路が懸詞） なんて素敵なお歌が続出です♪。 古典文法を復習しながら、貴女の感性にピッタリの和歌世界に浸れます。
評価方法	演習の発表（100%）
参考文献	片桐洋一『歌枕・歌ことば辞典』
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古典文法の復習もかね、古典学習の方法を学び、ⅢAに継いで和歌、古典の読解を発展させます。
授業計画	<p>第1回 『風情集』述懐百種・古典和歌の世界、修辞について（復習）</p> <p>第2回 受講生の発表1（風情集535～545番、以下同）</p> <p>第3回 受講生の発表2（風情集546～556）</p> <p>第4回 受講生の発表3（風情集557～567）</p> <p>第5回 受講生の発表4（風情集568～578）</p> <p>第6回 受講生の発表5（風情集579～589）</p> <p>第7回 受講生の発表6（風情集590～600）</p> <p>第8回 受講生の発表7（風情集601～611）</p> <p>第9回 受講生の発表8（風情集612～622）</p> <p>第10回 受講生の発表9（風情集623～633）</p> <p>第11回 受講生の発表10（風情集633～634）</p> <p>第12回 和歌詠作1</p> <p>第13回 和歌詠作2</p> <p>第14回 和歌詠作3（公重風に）</p> <p>第15回 和歌詠作（公重風に）</p>
授業概要	平安時代後期の歌人藤原公重の歌集『風情集』末尾の百首は、あたかも自虐・ウツの感情に満ち満ちた大変ユニークな和歌です。本授業では独特のレトリックに満ちた、問題の百首に取り掛かります。各自、宛てられた和歌を読み解き、その意味、技法を発表します。更にⅢAに引き続き王朝風、公重風和歌を各自つくります。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	常に文法書、古語辞典を携帯し、古典を読む。対象が平安和歌なので、古今和歌集がおすすめ。
テキスト	コピーを配ります。高校で利用した古典文法、古語辞書必携（電子辞書はお勧めしません）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	吾と云へば人の言葉はあらし山かくては何と生まれこしぢぞ 「私が…」といふと他人の言葉は荒いのです（荒らしと愛発山が懸詞）。この様な状況では、どうして私は生まれてきたのだらう（と歎かれます）（来しと越路が懸詞） なんて素敵な歌が続出です。 古典文法を復習しながら、貴女の感性にピッタリの和歌世界に浸れます。
評価方法	演習の発表（100%）
参考文献	片桐洋一『歌枕・歌ことば辞典』
備考	

講義科目名称：近現代文学基礎演 I A (10143)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	近代から現代までの短篇小说を対象とし、「研究」として文学テクストを読むとはどういうことを学ぶ。授業を通して、テクストの構造や語りの問題、発表された時代への注目など、文学テクストを分析的に読むための基礎力を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 前期ガイダンス テキスト、授業の方法について説明。各担当の振り分け。</p> <p>第2回 志賀直哉「小僧の神様」を読む①</p> <p>第3回 志賀直哉「小僧の神様」を読む②</p> <p>第4回 夢野久作「瓶詰地獄」を読む①</p> <p>第5回 夢野久作「瓶詰地獄」を読む②</p> <p>第6回 太宰治「葉桜と魔笛」を読む①</p> <p>第7回 太宰治「葉桜と魔笛」を読む②</p> <p>第8回 中島敦「文字禍」を読む①</p> <p>第9回 中島敦「文字禍」を読む②</p> <p>第10回 川端康成「水月」を読む①</p> <p>第11回 川端康成「水月」を読む②</p> <p>第12回 有吉佐和子「亀遊の死」を読む①</p> <p>第13回 有吉佐和子「亀遊の死」を読む②</p> <p>第14回 川上弘美「蛇を踏む」を読む①</p> <p>第15回 川上弘美「蛇を踏む」を読む②、前期のまとめ</p>
授業概要	履修者による発表と、それを踏まえた小グループや全体でのディスカッションを中心とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	発表担当者以外の人も、対象作品を読み、疑問点や自分なりの考え、みんなと議論したいことを整理してくる。
テキスト	小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい』（慶應義塾大学出版会、2400円＋税）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品を読んで、皆さんが面白い、あるいはつまらないと思ったところ、疑問に思ったところを大事にしていきたいです。そこにどのような調査や考察を加えていくと、一つの論としてレポートや論文のかたちに見合う〈読み〉になっていくのか、一緒に学習していきましょう。皆さんそれぞれの視点や意見をもとに授業を組み立てていくので、積極的な態度・発言を期待します。
評価方法	授業中の報告内容（30%）、質疑などの発言（20%）、レポート課題（50%）によって評価する。
参考文献	松本和也編『テクスト分析入門—小説を分析的に読むための実践ガイド』（ひつじ書房、2000円＋税）、その他、授業中に適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：近現代文学基礎演 I B (10144)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	近代日本の短篇小説の読解を、演習形式で行う。作品内の語句や事象について細かい注釈をつけること、前期で学んだ内容を復習しながら自分なりの読解や考察を提示すること、そしてそれを踏まえ履修者全員で議論することを通して、文学研究に必要な調査力や考察力を磨く。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス テキスト、授業の方法、発表準備の方法、資料の探し方について説明。報告者の選定。</p> <p>第2回 中里恒子「墓地の春」を読む</p> <p>第3回 石川淳「焼け跡のイエス」を読む</p> <p>第4回 原民喜「夏の花」を読む</p> <p>第5回 坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む</p> <p>第6回 野間宏「顔の中の赤い月」を読む</p> <p>第7回 梅崎春生「蜆」を読む</p> <p>第8回 尾崎一雄「虫のいろいろ」を読む</p> <p>第9回 武田泰淳「もの喰う女」を読む</p> <p>第10回 永井龍男「胡桃割り」を読む</p> <p>第11回 林芙美子「水仙」を読む</p> <p>第12回 大岡昇平「出征」を読む</p> <p>第13回 長谷川四郎「小さな礼拝堂」を読む</p> <p>第14回 安部公房「ブルートーのわな」を読む</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	履修者による発表と、それを踏まえた小グループや全体でのディスカッションを中心とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	発表担当者以外の人も、対象作品を読み、疑問点や自分なりの考え、みんなと議論したいことを整理してくる。
テキスト	紅野敏郎ほか編『日本近代短篇小説選 昭和篇2』（岩波文庫、850円＋税）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品を読んで、皆さんが面白い、あるいはつまらないと思ったところ、疑問に思ったところを大事にしていきたいと思います。そこにどのような調査や考察を加えていくと、一つの論としてレポートや論文のかたちに見合う〈読み〉になっていくのか、一緒に学習していきましょう。皆さんそれぞれの視点や意見をもとに授業を組み立てていくので、積極的な態度・発言を期待します。
評価方法	授業中の報告内容（30%）、質疑などの発言（20%）、レポート課題（50%）によって評価する。
参考文献	小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい』（慶應義塾大学出版会、2400円＋税）、松本和也編『テキスト分析入門—小説を分析的に読むための実践ガイド』（ひつじ書房、2000円＋税）。その他、授業中に適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：近現代文学基礎演ⅡA（10151）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	演習形式で現代社会とメディアに関する文献と論文、小説を読みます。到達目標は以下の二つです。①現代社会を読みとく視座と文学作品の読み方を学ぶ。②議論に参加することによって自身の考えを発信する力と他者の考えを聞く力を身につける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 映画『TIME /タイム』（2011年）を見る</p> <p>第3回 プレゼンテーションを学ぶ</p> <p>第4回 調査の方法を学ぶ</p> <p>第5回 文献購読①：石田英敬『自分と未来の作り方』第1回～第2回</p> <p>第6回 文献購読②：石田英敬『自分と未来の作り方』第3回～第4回</p> <p>第7回 文献購読③：石田英敬『自分と未来の作り方』第5回、全体のまとめ及び補足</p> <p>第8回 文献購読：阿部公彦『小説的思考のススメ』第4章</p> <p>第9回 文献購読：阿部公彦『小説的思考のススメ』第7章</p> <p>第10回 文献購読：阿部公彦『小説的思考のススメ』第10章</p> <p>第11回 映画『アナと雪の女王』（2013年）を見る</p> <p>第12回 『アナと雪の女王』とフェミニズム・労働</p> <p>第13回 村田沙耶香『コンビニ人間』を読む</p> <p>第14回 宇佐美りん『推し、燃ゆ』を読む</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。また、毎授業の始めには数名に気になる小説、映画、アニメ、ゲーム、動画、ニュース等について簡単な発表をしてもらいます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	石田英敬『自分と未来の作り方（岩波ジュニア新書、780円+税）、その他はプリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分の周りにあるメディアに意識を向けるようにしてください。小説を読む力は、自分の周りの世界を読む力でもあります。
評価方法	授業中の報告（30%）及び議論への貢献度（30%）、期末レポート（40%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：近現代文学基礎演ⅡB（10152）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	演習形式で三島由紀夫『金閣寺』を読んでいくとともに、作品分析について学びます。授業の後半では、各自で作品を選び、分析を発表してもらいます。到達目標は以下の三つです。①文学作品の精読を通して、作品分析の方法を学ぶ。②作品分析を実践して、自身の「読み」を作り出す。③自身の「読み」を他者に理解できるよう伝える。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 三島由紀夫とその周辺</p> <p>第3回 映画『炎上』（1958年）を見る</p> <p>第4回 三島由紀夫『金閣寺』を読む①</p> <p>第5回 三島由紀夫『金閣寺』を読む②</p> <p>第6回 三島由紀夫『金閣寺』を読む③</p> <p>第7回 三島由紀夫『金閣寺』を読む④</p> <p>第8回 作品分析を学ぶ①：なぜ分析するのか</p> <p>第9回 作品分析を学ぶ②：どう分析するのか</p> <p>第10回 作品分析を学ぶ③：どう記述するのか</p> <p>第11回 個人発表①</p> <p>第12回 個人発表②</p> <p>第13回 個人発表③</p> <p>第14回 個人発表④</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。また、毎授業の始めには数名に気になる小説、映画、アニメ、ゲーム、動画、ニュース等について簡単な発表をしてもらいます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	三島由紀夫『金閣寺』（新潮文庫、670円+税）、その他はプリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	テキスト以外の三島由紀夫の小説や映画化作品などを手に調べてみて下さい。作品を読んで自分が感じたことを大切にしつつ、なぜ自分がそこに興味を持ったのか考え抜きましょう。
評価方法	授業中の報告（30%）及び議論への貢献度（30%）、期末レポート（40%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	



講義科目名称：国語学基礎演習 I A (10161)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	国語学国文学の基礎的知見を身につけることを授業テーマの軸に据えて、古典文学の実文章に触れ、古典文法の基礎的事項を十分に理解し、古典を「読む」技術を身につけることを目標とする。
授業計画	<p>初回 古典の仮名遣いについて確認する</p> <p>2回 日本文学史の時代区分を知る</p> <p>3回 古典文学史の流れを大掴みに把握する（上代・中古文学）</p> <p>4回 古典文学史の流れを大掴みに把握する（中世・近世文学）</p> <p>5回 古典籍に関する諸資料(参考図書)を使って古典作品の概要を調べる</p> <p>6回 辞書の構成について理解する</p> <p>7回 古語を調べる</p> <p>8回 吉田兼好と『徒然草』について知る</p> <p>9回 『徒然草』の章段を読む</p> <p>10回 清少納言の活躍した時代について</p> <p>11回 『枕草子』執筆の動機について</p> <p>12回 『枕草子』の本文系統について</p> <p>13回 『枕草子』類聚章段および随想的章段を読む</p> <p>14回 『枕草子』日記的章段を読む</p> <p>15回 『枕草子』と『徒然草』（まとめ）</p>
授業概要	日本の古典文学におけるおおよその歴史的展開を理解するため、代表的な古典作品、とくに『枕草子』『徒然草』といった随筆を中心教材とし、文体的な特徴を掴む。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	翌週の学習範囲・概要を指定するので、示された部分を事前に読み、要点を掴むようにしてください。授業後は、問題点を整理し、理解の痕跡を残しておくことに努めてください。
テキスト	特段指定するテキストはありません。高校時代の国語科の授業で使用した古語辞典、古典文法のサブテキスト等あれば、座右に御用意ください。電子辞書等でも差し支え有りません。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	高校生の時に、あまり古典に馴染みが無かった方を対象に授業展開する予定です。作業中心に授業を進めることが受講生の理解に結びつくという傾向が授業評価から見て取れますので、できる限り作業を取り入れて進めたいと思います。
評価方法	授業への参加度(50%)と提出物を頻繁に課しますのでその成果(50%)とを併せて総合的に評価します。
参考文献	小田勝『読解のための古典文法教室』（和泉書院） 安良岡康作『徒然草全注釈』（角川書店） 田中重太郎『枕草子全注釈』（角川書店）
備考	

講義科目名称：国語学基礎演習 I B (10162)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	国語学国文学の基礎的知見を身につけることを授業テーマの軸に据えて、「国語学基礎演習 I A」にて習得した古典文法基礎力を基に、古典を読み深めてゆくことを目標とする。
授業計画	<p>初回 演習計画</p> <p>2回 北村季吟『枕草子春曙抄』について</p> <p>3回 『春曙抄』本文・傍注・頭注を読む</p> <p>4回 発表に備えて各自読みの練習をする① 一変体仮名に馴れる (1) 現代に通用する字母一</p> <p>5回 発表に備えて各自読みの練習をする② 一変体仮名に馴れる (2) 古筆特有の字母一</p> <p>6回 発表に備えて各自読みの練習をする③ 一注釈部の理解一</p> <p>7回 発表① 「清涼殿の丑寅の隅の」</p> <p>8回 発表② 「頭中将そぞろなるそら言にて」</p> <p>9回 発表③ 「里にまかでたるに」</p> <p>10回 発表④ 「淑景舎東宮にまゐりたまふほどのことなど」</p> <p>11回 発表⑤ 「円融院の御はての年」</p> <p>12回 発表⑥ 「宮に初めてまゐりたるころ」</p> <p>13回 発表⑥ 「御前に人々あまたもの仰せらるるついでに」</p> <p>14回 発表⑦ 「大納言まゐりて」</p> <p>15回 発表⑧ 「僧都の君の御乳母」</p>
授業概要	古典が書かれた時代背景を理解しつつ、江戸時代に作られた『枕草子』注釈書のテキストを字起こししながら、読み進めてゆく。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	「国語学基礎演習 I A」と同様に、翌週の学習範囲・概要を指定するので、示された部分を事前に読み、要点を掴むようにしてください。授業後は、問題点を整理し、理解の痕跡を残しておくことに努めてください。
テキスト	「国語学基礎演習 I A」に同じく、特段指定するテキストはありません。高校時代の国語科の授業で使用した古語辞典、古典文法のサブテキスト等あれば、座右に御用意ください。電子辞書等でも差し支えありません。
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	「国語学基礎演習 I A」の学習内容を承けて、受講生による輪読を主体として授業展開します。授業中の積極的発言(授業内容に関与するものに限って)は大歓迎です。
評価方法	授業への参加度(50%)と演習の成果(50%)とを併せて総合的に評価します。
参考文献	小田勝『事例詳解古典文法総覧』(和泉書院) 田中重太郎『枕冊子全注釈』(角川書店) 萩谷朴『枕草子解環』(同朋舎出版)
備考	

講義科目名称：国語学基礎演習ⅡA（10171）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	現代日本語表現に関する実践力、思考力の養成を目指します。国語教育の分野を含みます。		
授業計画	第1回	ガイダンス 前期 基本資料の配付とグループ分け Teams 使い方	
	第2回	情報発信力を高める 導入 授業展開の方法と教材 イントロダクション 自己紹介	
	第3回	表現の基礎 表記とことばづかい1	
	第4回	表現の基礎 表記とことばづかい2 新聞学習1 紙面構成、記事構成、見出し	
	第5回	新聞学習2 記事の読み解き実習その1	
	第6回	新聞学習3 記事の読み解き実習その2	
	第7回	新聞とSDGs1 概要を学ぶ	
	第8回	新聞とSDGs2 紙面活用して課題と目標を結ぶ 学生印刷室の使い方	
	第9回	情報を整理して示す メニューを作る	
	第10回	情報を整理して示す メモーを作る	
	第11回	情報を確実に伝える 注意書き1	
	第12回	情報を確実に伝える 注意書き2	
	第13回	情報を正確に伝える 連絡メール	
	第14回	情報を正確に伝える 案内メール	
	第15回	まとめ	
授業概要	言語理解と言語表現をアクティブラーニングの視点からグループワークという作業を通して実践的にまた主体的に学ぶための演習をします。はじめに新聞を教材として学びます。次にテキストを使用し、ことばの働きに関して重要と考えられる言語学的トピックスを取り上げ、エクササイズを行います。どこがおかしいのか、どう直せばよいのかをみんなで検討してみましょう。演習形態はグループ編成学習です。4グループ程度に分けます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎回の演習で取り上げられるテーマについて、自分の見方や他の人の考え方を整理するように努めてください。		
テキスト	『新聞授業ガイドブック(朝日新聞社)』、『グループワークで日本語表現力アップ』ひつじ書房 最初の演習時に指示します。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	演習は、学生による学生のための時間です。教師役と学生役を受講生が交替しながら自分たちで運営しているかなければなりません。出席し、参加することが一番大切なことです。		
評価方法	演習への参加度・質疑応答の参加度(100%) 筆記試験・個別レポートはありませんが、演習時に課題作成があります。		
参考文献			
備考	授業計画の変更がある場合は直接通知します。		

講義科目名称：国語学基礎演習ⅡB（10172）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	現代日本語表現に関する実践力、思考力の養成を目指します。国語教育の分野を含みます。国語学基礎演習ⅡA（10171）とともに履修すること。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 授業展開の方法と教材 後期 基本資料の配付</p> <p>第3回 発表資料の作成の仕方</p> <p>第4回 表現の基礎 読みやすい文1</p> <p>第5回 表現の基礎 読みやすい文2</p> <p>第6回 相手に合わせて表現する 敬語</p> <p>第7回 相手に合わせて表現する 敬語2</p> <p>第8回 配慮して伝える お願いする1</p> <p>第9回 配慮して伝える お願いする2</p> <p>第10回 丁寧に伝える 手紙の書き方</p> <p>第11回 表現の基礎 わかりやすい文章</p> <p>第12回 報告書原稿の作成</p> <p>第13回 報告書原稿の修正</p> <p>第14回 報告書原稿の完成</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	言語理解と言語表現をアクティブラーニングの視点からグループワークという作業を通して実践的にまた主体的に学ぶための演習をします。仮想世界の会話や文書による表現にふれながら、ことばの働きに関して重要と考えられる言語学的トピックスを取り上げ、エクササイズを行います。具体的には、「ちょっとおかしいんじゃない」と感じとれる文例を参照し、どこがおかしいのか、どう直せばよいかをみんなで検討してみましょう。演習形態はグループ編成学習です。4グループ程度に分けます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の演習で取り上げられるテーマについて、自分の見方や他の人の考え方を整理するように努めてください。
テキスト	『グループワークで日本語表現力アップ』ひつじ書房
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	演習は、学生による学生のための時間です。教師役と学生役を受講生が交替しながら自分たちで運営していかなければなりません。出席し、参加することが一番大切なことです。
評価方法	演習への参加度・質疑応答の参加度（100%） 筆記試験・個別レポートはありませんが、演習時に課題作成があります。
参考文献	
備考	授業計画の変更は直接通知します。

講義科目名称：論理と表現（10181）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
今井 瞳良			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	論理的な文章表現の基礎であるパラグラフライティングを学びます。到達目標は以下の二つです。①論理的な文章を書く力を身につける。②論理的思考力を身につける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 なぜ文章は「読めない」のか</p> <p>第3回 パラグラフライティング①：トピックセンテンスを考える</p> <p>第4回 パラグラフライティング②：パラグラフを完成させる</p> <p>第5回 絵画を例にパラグラフを書いてみる①</p> <p>第6回 絵画を例にパラグラフを書いてみる②</p> <p>第7回 アニメを例にパラグラフを書いてみる</p> <p>第8回 パラグラフを増やす①：何を書いてはいけないのか</p> <p>第9回 パラグラフを増やす②：自分の意見と他人の意見を分ける</p> <p>第10回 パラグラフを増やす③：並べる順番を考える</p> <p>第11回 川端康成『日向』を読んでパラグラフを書く</p> <p>第12回 川端康成『雨傘』を読んでパラグラフを書く</p> <p>第13回 川端康成『非常』を読んでパラグラフを書く</p> <p>第14回 パラグラフから文章へ</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	様々な題材を使って文章を書く練習をします。話し合いの時間も取りますので、論理的に話す練習にもなると思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	ネットや新聞などで見かけた気になるニュースを、見出しだけではなく全文読む。
テキスト	プリントを配ります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	一方的な講義ではなく、ワークを中心に進めるので、積極的に授業に参加して下さい。論理的な文章を書く力は必ず役に立ちます。
評価方法	授業への参加（30%）、毎授業での課題の習熟度（70%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：国語表現法A（10191）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択・教職選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	日本語音声学の入門講座です。音声表現に関して基礎知識の定着と実践力を養成します。「聞く(聴覚音声学)」と「話す(調音音声学)」領域を学びます。
授業計画	<p>第1回 導入 音声学とは</p> <p>第2回 言葉の単位 音感実習</p> <p>第3回 調音音声学 口腔断面図 課題</p> <p>第4回 調音音声学2 課題の確認</p> <p>第5回 調音音声学3 確認テスト</p> <p>第6回 日本語の発音 母音の発声 日本人の口の開き方と英語の基本母音</p> <p>第7回 調音法 L1教室の使い方 調音音声学</p> <p>第8回 音声器官の復習 調音器官の動作実習</p> <p>第9回 外国語の音声 聴覚実習</p> <p>第10回 子音 口音と鼻音</p> <p>第11回 閉鎖音・摩擦音 子音2</p> <p>第12回 破擦音・接近音・弾き音 子音3</p> <p>第13回 母音の無声化 聞き取りとルール</p> <p>第14回 鼻濁音 聞き取りと発音練習</p> <p>第15回 振り返り学習 試験</p>
授業概要	L1教室で講義と実習、グループ学習(演習)を中心に行い、話す音と聞く音はどう違うのかを体験します。演習を兼ねるため、受講生数の制限があります。Microsoft teamsを併用します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	音声学に関連する専門用語について、毎回知識の定着をはかるように努めてください。
テキスト	本年度の国語学概論のテキスト『新ここからはじまる日本語学』を利用します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	教職(国語)必修科目として履修する場合は、後期開講の「国語表現法B(10192)」も受講すること。音声に関する身近な例(CD、DVD、BD)を多く挙げます。プリントを多数併用します。綴じるファイルを用意してください。
評価方法	1年間(「国語表現法B(10192)」も含めて)座席指定。授業への参加度を重視90%(グループ課題達成度30%を含む)試験10%。
参考文献	
備考	Microsoft teams参加コードは、指定した方法で配布します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：ヒトが音声をどのように放射して感知するのか全体的な仕組みを理解する</p> <p>到達目標：ヒトの発する音声を</p> <p>(1) 物理的側面から発声から実音に到る仕組みを理解する</p> <p>(2) 聴覚的にどのように音声を捉えるのかその全容を理解する</p>
授業計画	<p>初回 導入 言語形成期と言語歴 受講者自身の言語形成についての内省・記述</p> <p>2回 話し言葉の音声① ーオトとオンとー 「音」の二面性</p> <p>3回 話し言葉の音声② ー音の種類ー 音全体の中の音声の占める位置</p> <p>4回 音声器官 音声を形成するヒトの音声器官の部位と役割</p> <p>5回 音の分類と分析方法 ヒトの発する音の性質と分類方法</p> <p>6回 音の強さと大きさ 音の物理的強さ、聴覚的大きさ</p> <p>7回 音の強さの尺度 音圧、デシベル、音のスペクトル</p> <p>8回 音の刺激量 フェヒナーの法則、ウェーバーの法則</p> <p>9回 音の高さ オクターブ感覚、メル尺度、聴覚器官の構造</p> <p>10回 母音の生成としくみ 喉頭原音、構音・調音、基音・倍音</p> <p>11回 母音・鼻音とフォルマント ソース・フィルタモデル、鼻音フォルマント</p> <p>12回 子音の分類 子音分類の三基準</p> <p>13回 共鳴音の調音 共鳴音のスペクトログラム</p> <p>14回 阻害音の調音 阻害音のスペクトログラム</p> <p>15回 まとめと筆記試験の説明 第1～14回の講述内容のおさらいとポイントの解説</p>
授業概要	そもそも「音声」とは何か、音声はどのように発信されどのように受容されるのか、音声の放射と感知の実態を詳しく観察する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	音声学に関する専門用語・専門知識について、毎時消化吸収するよう練習問題を提示しますので、確実にこなしてください。
テキスト	スライドによる講述につきハンドアウトを用意します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教職必修科目ですので、受講制限が必要になった場合は、教職希望者を優先します。スライド使用で授業を進めます。必要の際は、チームズの掲示板にアウトラインを掲示しますので、適宜参照してください。
評価方法	毎時提示する練習問題は提出（ワークシート使用）を求めます。その成果(50%)と試験期間中に実施するペーパーテスト(50%)と併せて総合的に評価します。
参考文献	城生伯太郎・福盛貴弘・齋藤純男『音声学基本事典』（勉誠出版） 服部四郎『音声学』（岩波書店） 川上葵『日本語音声概説』（おうふう） 川原繁人『ビジュアル音声学』（三省堂）
備考	

講義科目名称：国語表現法B（10192）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択・教職選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	国語表現法A（10191）で履修した内容をもとに、日本語の韻律特徴を学びます。アクセント・イントネーション・プロミネンス・速度・テンポを理解し、音読・朗読・群読の技法を身につけます。		
授業計画	第1回	導入 音声表現で何を学ぶか 五〇音の並び、音声連続の特色（プロソディ）	
	第2回	音感覚 アクセント	
	第3回	アクセントの式と型	
	第4回	イントネーション スラッシュリーディング1	
	第5回	韻律 スラッシュリーディング2	
	第6回	プロミネンス1 音読基礎	
	第7回	プロミネンスとポーズ 音読基礎2	
	第8回	朗読 個人読み 詩	
	第9回	朗読2 個人読み 物語 場面と情景	
	第10回	朗読記号 群読 小編成	
	第11回	群読2 小編成実習	
	第12回	群読3 中編成 ポートフォリオ作成	
	第13回	群読4 中編成実習 指導案の作成	
	第14回	群読5 中編成 実技試験	
	第15回	まとめと試験	
授業概要	国語表現法A（10191）を履修済みであること。LL教室で講義と実習、グループ学習（演習）を中心に行い、話す音の特徴を理解し、音読、朗読、群読の技法を身につけます。 Microsoft teamsを併用します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	音声学に関連する専門用語について、毎回知識の定着をはかるように努めてください。また課題教材の音読を何度もしてください。		
テキスト	プリント使用。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	前期開講の「国語表現法A（10191）」を履修済みであることが履修条件となります。音声に関する身近な例（CD、DVD、BD）を多く挙げます。プリントを多数使用します。綴じるファイルを用意してください。		
評価方法	座席指定。授業への参加度を重視70%（グループ課題達成度40%を含む）、実技20%、試験10%。		
参考文献			
備考			



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：日本語音声の実相と音声たらしめている音の観念とについて理解する</p> <p>到達目標：日本語音声の実相と観念上の音に関して</p> <p>(1) 子音と母音とに分けてそれぞれの調音的・物理的特徴を理解する</p> <p>(2) 受講生自身の話し言葉を内省しつつ音声的・超分節素的特徴を理解する</p>
授業計画	<p>初回 母音の調音音声学的記述① ー短母音・長母音・連母音ー</p> <p>2回 母音の調音音声学的記述② ー母音の無声化ー</p> <p>3回 五十音図の音声学的分析 五十音図の構造を音声学的に解析する</p> <p>4回 子音の有標性 子音らしさと母音っぽさ</p> <p>5回 注意すべき子音の調音 硬口蓋化子音とサ行・タ行・ナ行・ハ行子音</p> <p>6回 ガ行濁子音・合拗音</p> <p>7回 四つ仮名の歴史的展開</p> <p>8回 無声子音の有声化・開拗音の直音化</p> <p>9回 音声と音素 異音、音素、相補分布</p> <p>10回 特殊拍とその音声 特殊拍の音声学的記述とその理解</p> <p>11回 語の清濁と連濁</p> <p>12回 日本語音韻の歴史的変遷 サ行子音・ハ行子音の歴史的展開、音節数の変化</p> <p>13回 日本語のアクセント アクセント核、有核・無核アクセント、アクセントの型</p> <p>14回 全国の音声・音韻・アクセント 東部方言、西部方言、九州方言</p> <p>15回 まとめと筆記試験の説明 第14回の補遺(琉球方言)と全体のまとめ</p>
授業概要	日本語の音声・音韻・アクセントについて、受講生の話し言葉を観察しつつ、その特質・特徴について理解を深める。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	「国語表現法A」同様に、音声学に関する専門用語・専門知識について、毎時消化吸収するよう練習問題を提示しますので、確実にこなしてください。
テキスト	スライドによる講述につきハンドアウトを用意します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「国語表現法A」同様に、教職必修科目ですので、受講制限が必要になった場合は、教職希望者を優先します。スライド使用で授業を進めます。必要の際は、チームズの掲示板にアウトラインを掲示しますので、適宜参照してください。
評価方法	「国語表現法A」同様に、毎時提示する練習問題は提出(ワークシート使用)を求めます。その成果(50%)と試験期間中に実施するペーパーテスト(50%)と併せて総合的に評価します。
参考文献	城生伯太郎・福盛貴弘・齋藤純男『音声学基本事典』（勉誠出版） 服部四郎『音声学』（岩波書店） 川上泰『日本語音声概説』（おうふう） 川原繁人『ビジュアル音声学』（三省堂）
備考	

講義科目名称：古典文学講読 I (10211)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	『万葉集』秀歌や『古今和歌集』の仮名序や四季の歌の読解、歌人研究や歌ことばの表現分析を通して、韻文世界に親しむ。また、『古今和歌集』の影響と受容の諸相を理解する。
授業計画	<p>第1回 導入、和歌文学概説</p> <p>第2回 古代和歌文学史</p> <p>第3回 『万葉集』秀歌（第一期、第二期）の読解</p> <p>第4回 『万葉集』秀歌（第三期、第四期）の読解</p> <p>第5回 『古今和歌集』「仮名序」の読解①</p> <p>第6回 『古今和歌集』「仮名序」の読解②、六歌仙研究</p> <p>第7回 『古今和歌集』「春歌上」の読解①</p> <p>第8回 『古今和歌集』「春歌上」の読解②</p> <p>第9回 『古今和歌集』「春歌下」の読解①</p> <p>第10回 『古今和歌集』「春歌下」の読解②、歌人研究</p> <p>第11回 『古今和歌集』「夏歌」の読解、歌人研究</p> <p>第12回 『古今和歌集』「夏歌」の読解、歌ことばの表現研究</p> <p>第13回 『古今和歌集』「秋歌上」の読解①、歌ことばの表現研究</p> <p>第14回 『古今和歌集』「秋歌上」の読解②</p> <p>第15回 『高野切第一種 古今和歌集』の原文読解（変体仮名を読む）</p>
授業概要	テキストに沿って、古代和歌を味読しながら、和歌の鑑賞・研究の方法を学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	『古今和歌集』は平安文学読解の基礎です。日常的に読み込み、暗唱して、授業や他作品の読解に活かして下さい。
テキスト	小町谷照彦訳注『古今和歌集』（ちくま学芸文庫）、1500円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	平安時代の最初の勅撰和歌集『古今和歌集』は、日本人の季節観を形作り、また、『枕草子』のお后教育にもその暗唱が課せられているように、貴族達に広く愛唱され、作歌の素材・素養となりました。『源氏物語』の引歌で最も多いのもこの作品です。和歌の読解と鑑賞を通して古典文学に親しみ、平安時代の感性を身に付けることで、他作品をも理解できる素地を養います。
評価方法	レポート（80%）、授業への参加の度合い（20%）で評価する。
参考文献	『新編日本古典文学全集』（万葉集、古今和歌集）小学館 『新日本古典文学大系』（万葉集、古今和歌集）岩波書店 その他、授業内で指示します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の物語文学を理解するための基礎的な知識を身につける。 2. 辞書などを使って調べ、読解する力を身につける。
授業計画	<p>第1回 『源氏物語』概説①（「成立と作者」－『紫式部日記』と『源氏物語』）</p> <p>第2回 『源氏物語』概説②（「諸本」、「『源氏物語』の構造」）</p> <p>第3回 『源氏物語』における「帚木」の位置 （冒頭の表現－「桐壺」と「帚木」のつながり、「帚木三帖」）</p> <p>第4回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」① （発端 光源氏と頭中将 頭中将の女性観）</p> <p>第5回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」② （左馬頭の論① 中の品の女）</p> <p>第6回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」③ （左馬頭の論② 理想の妻）</p> <p>第7回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」④ （左馬頭の体験談① 指喰いの女）</p> <p>第8回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑤ （左馬頭の体験談② 木枯の女）</p> <p>第9回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑥ （頭中将の体験談 常夏の女）</p> <p>第10回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑦ （藤式部丞の体験談 博士の娘/女性論のまとめ）</p> <p>第11回 「帚木」巻講読 「光源氏と空？」① （発端－方違えのため紀伊守邸へ）</p> <p>第12回 「帚木」巻講読 「光源氏と空？」② （女近き旅寝 空？の境遇）</p> <p>第13回 「帚木」巻講読 「光源氏と空？」③ （空？との契り）</p> <p>第14回 「帚木」巻講読 「光源氏と空？」④ （空？という女性）</p> <p>第15回 「帚木」巻講読 「まとめ」 （空？のその後 「恋愛譚の序」としての「帚木」巻）</p>
授業概要	『源氏物語』の「帚木」巻を講読します。登場人物の心情表現や語句に即して読み、「雨夜の品定め」に論じられる理想の女性像や女性の生き方についても考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回学習するテキストの範囲を指定するので、予め読んで、理解しておくこと。
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語』第1巻（角川ソフィア文庫）税込価格880円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「帚木」巻の「雨夜の品定め」は、後に展開される光源氏の恋愛譚の序と見ることができます。男性貴族たちの失敗談を交えた女性論は、現代にも通じるところがあり、楽しく読めることと思います。登場人物の心理描写、和歌など、『源氏物語』の豊かな表現世界に触れてみてください。毎時、各自の解釈や感想などを書いてもらう予定です。予習の上、出席して下さい。
評価方法	授業への出席（提出物）（30％）、学期末の筆記試験（70％）
参考文献	
備考	

講義科目名称：古典文学講読Ⅲ（10231）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	『保元物語』を読み解き、その魅力を知ると共に、その成立について学びます。
授業計画	<p>第1回 導入 保元物語の歴史的背景</p> <p>第2回 保元の乱の成立、諸本、作者像</p> <p>第3回 『保元物語』と対象歴史史料</p> <p>第4回 卷上講読一（乱の発端、崇徳院・藤原頼長）</p> <p>第5回 卷上講読二（策士信西の登場、陰謀の深化）</p> <p>第6回 卷上講読三（為義、その子英雄為朝の形象）</p> <p>第7回 卷上講読四（英雄為朝一党の成立）</p> <p>第8回 卷中講読一（合戦、清盛の懦弱、山田伊行の暴死）</p> <p>第9回 卷中講読二（合戦、義朝・為朝兄弟対決）</p> <p>第10回 卷中講読三（乱戦、関東武士の群像）</p> <p>第11回 卷下講読一（敗走・頼長最期）</p> <p>第12回 卷下講読二（父為義の処刑）</p> <p>第13回 卷下講読三（幼児とその母の死）</p> <p>第14回 卷下講読四（為朝捕縛流罪）</p> <p>第15回 卷下（番外）為朝の冒険と最期</p>
授業概要	保元の乱にもとづいた本作品三巻は、歴史的事件に基づきながら、英雄為朝の活躍や源氏の遺児達の処刑場面に見られる様に、物語としての飛躍があります。授業では単に意味を取るのではなく、歴史資料（『愚管抄』・『兵範記』等）との比較、保元物語の諸本（内容が異なる本、半井本・鎌倉本・京図本・竜門本・金刀比羅本、古活字本等）間の比較を通じて、立体的に物語を精読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	愚管抄、兵範記の関係箇所を読解、保元物語各本の対照、関連作品（保元物語・平家物語）の読解
テキスト	コピーを配ります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	さまざまな媒体で、源平合戦、あるいは保元の乱についてどこかで知ってゐる、キャラ萌えしてゐる貴女！『保元物語』がその根源ですぞ！ しかし歴史資料からする保元の乱の真相、『保元物語』諸本による事件展開、人物造型の相違等、今までとは異なる保元物語が起ち上がって来ると思ひます。 読まうと思へば三日で読める分量ぢやが、ねっつく読むぞ（`谷´；）
評価方法	レポート（100%）
参考文献	授業で適宜指示
備考	

講義科目名称：古典文学作品研究 I (10241)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	平安時代前期の作り物語である『竹取物語』と『うつほ物語』の読解を通して、物語の発生と主題、『源氏物語』などの後世の作品への影響関係を学び、古典文学の鑑賞力と基礎的な研究方法を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 導入、古代文学史</p> <p>第2回 『竹取物語』概説</p> <p>第3回 『竹取物語』の出典考証－天人女房譚の諸相－</p> <p>第4回 『竹取物語』の読解－かぐや姫の生い立ち－</p> <p>第5回 『竹取物語』求婚譚と五つの難題</p> <p>第6回 『竹取物語』仏の御石の鉢、蓬萊の珠の枝</p> <p>第7回 『竹取物語』火鼠の皮衣、竜の頸の珠</p> <p>第8回 『竹取物語』燕の子安貝、御狩の行幸</p> <p>第9回 『竹取物語』かぐや姫の昇天</p> <p>第10回 『竹取物語』富士の煙、『竹取物語』の享受－『源氏物語』の竹取引用－</p> <p>第11回 『うつほ物語』概説－秘琴伝授と王権の物語－</p> <p>第12回 『うつほ物語』「俊蔭」巻の読解－俊蔭の生い立ちと異郷への流離譚－</p> <p>第13回 『うつほ物語』「俊蔭」巻－俊蔭の秘琴伝授－</p> <p>第14回 『うつほ物語』「俊蔭」巻－仲忠のうつほ住み－</p> <p>第15回 『うつほ物語』「藤原の君」巻－あて宮求婚譚－、まとめ</p>
授業概要	前期物語を輪読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	事前に担当場面を読み込み、要約、要点確認をして授業に臨んで下さい。
テキスト	室伏信助訳注『新版竹取物語 現代語訳付き』（角川ソフィア文庫）640円（本体価格） 室城秀之編『うつほ物語』（角川ソフィア文庫）819円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『竹取物語』は『源氏物語』「絵合」巻に「物語の出できははじめの親」と紹介されています。また、『うつほ物語』は秘琴伝授と王権の物語で、後世の作品にも多く引用され、『枕草子』でも繰り返し物語談義に登場します。平安文学の読解は古典研究の基礎です。代表的な作品の読解を通して、基本的な作品鑑賞、研究の方法を身に付けます。積極的な授業への参加を望みます。
評価方法	レポート（80%）、授業への参加の度合い（20%）で評価する。
参考文献	上坂信男『竹取物語全評釈』右文書院 『新編日本古典文学全集 竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』小学館 『新編日本古典文学全集 うつほ物語①～③』小学館 室城秀之『うつほ物語 全』おうふう
備考	

講義科目名称：古典文学作品研究Ⅱ（10251）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の物語文学を理解するための基礎的な知識を身につける。 2. 辞書などを使って調べ、読解する力を身につける。
授業計画	<p>第1回 『源氏物語』概説①（「成立と作者」）</p> <p>第2回 『源氏物語』概説②（「諸本」「『源氏物語』の構造」）</p> <p>第3回 『源氏物語』の主要な登場人物について（「作中人物論」） 物語の「葵」巻までの展開</p> <p>第4回 「葵」巻講読「御代がわり」（帝の譲位にともなう状況の変化）</p> <p>第5回 「葵」巻講読「葵の上と六条御息所」（『源氏物語』の婚姻）</p> <p>第6回 「葵」巻講読「車争い」（人物描写の比較）</p> <p>第7回 「葵」巻講読「祭りの日」（葵の上・六条御息所への評価と若紫）</p> <p>第8回 「葵」巻講読「六条御息所の懊悩と物の怪」（「物の怪」とは何か）</p> <p>第9回 「葵」巻講読「葵の上の出産と死」①（物の怪との対面）</p> <p>第10回 「葵」巻講読「葵の上の出産と死」②（産後の葵の上）</p> <p>第11回 「葵」巻講読「葵の上追悼」①（葵の上の葬送と光源氏の悲嘆）</p> <p>第12回 「葵」巻講読「葵の上追悼」②（光源氏の傷心と和歌）</p> <p>第13回 「葵」巻講読「若紫との結婚」①（新枕と三日夜の餅）</p> <p>第14回 「葵」巻講読「若紫との結婚」②（若紫の裳着）</p> <p>第15回 「葵」巻講読「まとめ」（その後の人々）</p>
授業概要	『源氏物語』の「葵」巻を読みます。六条御息所、葵の上などの登場人物の内面の描写、和歌、語句などを読み解き、内容についての理解を深めるとともに、平安時代の結婚のあり方・「物の怪」信仰についても考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回学習するテキストの範囲を指定するので、予め読んで、理解しておくこと。
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語』第2巻（角川ソフィア文庫）税込価格880円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「葵」巻には、車争い、六条御息所の生霊など後世の作品にも影響を与えた名場面が多く描かれています。六条御息所、葵の上ら登場人物たちの心情の描写、巧みな物語展開など、豊かな表現世界に触れてみてください。毎時、各自の解釈や感想などを書いてもらう予定です。予習の上、出席して下さい。
評価方法	授業への参加度と提出物（30%）、学期末の筆記試験（70%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：古典文学作品研究Ⅲ（10261）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	『平治物語』を読み解き、その魅力を知ると共に、その成立について学びます。
授業計画	<p>第1回 導入 平治の乱の歴史的背景</p> <p>第2回 平治物語の成立・諸本・作者像、対象史料について</p> <p>第3回 卷上講読一 不用者信頼と大学者信西</p> <p>第4回 卷上講読二（焼討と信西最後の謎、その解明）</p> <p>第5回 卷上講読三 清盛・重盛の造形</p> <p>第6回 卷上講読四 物語の転機（光頼諫言・天皇脱出の虚実）</p> <p>第7回 卷上講読五（信頼像の瓦解と悪源太の登場）</p> <p>第8回 卷中講読一（重盛と義平の激突）</p> <p>第9回 卷中講読二（六波羅の決選と源氏の敗北）</p> <p>第10回 卷中講読三（源氏壊走）</p> <p>第11回 卷中講読四（義朝の最期、頼朝の捕縛）</p> <p>第12回 卷下講読一（義平の潜伏と刑死、怨霊化）</p> <p>第13回 卷下講読二（頼朝助命、配流）</p> <p>第14回 卷下講読三（常盤の苦衷）</p> <p>第15回 卷下講読四（源氏開運）</p>
授業概要	平治の乱にもとづいた本作品三巻は、歴史的事件に基づきながら、藤原信頼、信西等の造型に見られる様に、物語としての飛躍があります。授業では単に意味を取るのではなく、平治物語の諸本（内容が異なる本、陽明本・九条本、『平治物語絵詞』、金刀比等本）間の比較、他物語（『平家物語』・舞の本）との比較を通じて、立体的に物語を精読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	愚管抄の関係個所の読解、平治物語各本の対照、関連作品（保元物語・平家物語）の読解
テキスト	コピーを配ります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	歴史資料が不足してゐる為、平治の乱の真相は不明な所が多いのです。また源氏の敗北と悲話の部分には、民間伝承の反映が予想され、『保元物語』とも異なります。それでも謎の多い魔術師信西の自害、後白河院の脱出、源氏名刀伝説等、物語として興味深いです。読まうと思へば三日で読める分量ぢやが、ねっつく読むぞ（谷）；）
評価方法	レポート（100%）
参考文献	授業中、適宜指示
備考	

講義科目名称：古典文学特講 I (10271)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	上代、日本最古の神話『古事記』の読解を通して、古代日本人の精神のルーツや建国の歴史を探求し、物語の発生と展開、表現構造を理解する。『古事記』は三巻から成り、上巻は世界の成り立ちから神代を、中巻・下巻は古代天皇を中心とする人の世の物語を語る内容である。
授業計画	<p>第1回 導入、上代文学史</p> <p>第2回 『古事記』概説</p> <p>第3回 『古事記』序文の読解</p> <p>第4回 『古事記』上巻の読解―天地の創成、伊耶那岐神と伊耶那美神の神婚―</p> <p>第5回 黄泉国神話</p> <p>第6回 天照大神と須佐之男命、天の石屋神話（死と再生の物語）、八俣の大蛇伝説</p> <p>第7回 大国主神（稲羽の白兔、大国主神の成長譚と国作り）</p> <p>第8回 『古事記』の須佐之男命と芥川龍之介『老いたる素戔鳴尊』の比較</p> <p>第9回 天照大神と大国主神（国譲りの顛末）</p> <p>第10回 天忍穗耳命と迺々芸命（天孫降臨神話）</p> <p>第11回 日子穗々出見命（海佐知と山佐知）、鵜葺草葺不合命の誕生と系譜</p> <p>第12回 『古事記』中巻の読解―神武天皇の東征―</p> <p>第13回 神武天皇記</p> <p>第14回 崇神天皇記（三輪山神婚説話）</p> <p>第15回 垂仁天皇記、まとめ</p>
授業概要	『古事記』の輪読や『日本書紀』などの比較を通して、古代史・古代文学の世界を理解し、研究史上の問題点を探求する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	事前に担当場面を読み込み、要約、要点確認をして授業に臨むこと。
テキスト	中村啓信訳注『新版 古事記 現代語訳付き』（角川ソフィア文庫）1160円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	上代文学作品は後世の文学作品にも大きな影響を与えています。『古事記』『日本書紀』を通して神話の世界や古代史、和歌の発生を理解し、日本文学の基盤を学びましょう。
評価方法	レポート（80%）と授業への参加の度合い（20%）で評価する。
参考文献	『新編日本古典文学全集 古事記』小学館 西郷信綱『古事記注釈』全八巻、ちくま学芸文庫 大林太郎・吉田敦彦編『日本神話事典』大和書房
備考	



講義科目名称：古典文学特講Ⅱ（10281）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	平安時代前期の歌物語『伊勢物語』の調査、表現分析、研究発表を通して、作中人物の関係性と真情を理解し、物語の主題を探究する。また、『伊勢物語』の享受の様相から、文学史上の意義を考察する。
授業計画	<p>第1回 導入、平安前期物語の概要</p> <p>第2回 『伊勢物語』概説一昔男・在原業平とその時代一</p> <p>第3回 『伊勢物語』概説一本文と注釈史一</p> <p>第4回 『伊勢物語』初段と八十一段、最終章段の読解（研究発表の実例）</p> <p>第5回 『伊勢物語』二条后章段の輪読発表一昔男と二条後の悲恋一</p> <p>第6回 『伊勢物語』女を盗む話の輪読発表一昔男、二条后を盗み出す一</p> <p>第7回 『伊勢物語』東下り章段の輪読発表一昔男、東国に下る一</p> <p>第8回 『伊勢物語』鄙に下る章段の輪読発表一昔男、地方に下る一</p> <p>第9回 『伊勢物語』惟喬親王章段の輪読発表一昔男、旧主・惟喬親王と親しむ一</p> <p>第10回 『伊勢物語』伊勢斎宮章段の輪読発表一昔男と斎宮の禁忌の恋一</p> <p>第11回 『伊勢物語』翁章段、姫の段の輪読発表一老者の役割一</p> <p>第12回 『伊勢物語』運命を嘆く段の輪読発表</p> <p>第13回 『伊勢物語』親族章段の輪読発表一昔男と親族たちとの交情一</p> <p>第14回 『伊勢物語』の文学史上の位置付け・享受史</p> <p>第15回 『伊勢物語』の原文読解（変体仮名の読み方）</p>
授業概要	歌物語『伊勢物語』を、担当者による輪読・研究発表を中心に読解します。初冠の段に始まり、昔男の死を語る段で終る全125段の物語は、10余りの章段で構成されています。各章段の特色と意義を調査検証し、質疑応答することで、作品全体の流れを把握しながら、作品理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	発表日の2・3週間前から、担当場面の注釈の比較、現代語訳、研究を深め、準備して臨んで下さい。発表の1週間前に、事前指導を受けて下さい。
テキスト	石田穰二訳注『新版伊勢物語 現代語訳付き』（角川ソフィア文庫）720円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『伊勢物語』の昔男は都や鄙（地方）で多くの人々と交情し、和歌を詠じます。男と女、都と鄙、藤氏と他氏、藝（日常）と晴（非日常）の場で生み出される歌物語を、人物相互の関係性や和歌、歴史的背景の分析を通して味読、研究し、作品理解を深めます。
評価方法	輪読・研究発表（30%）、レポート（60%）、授業における積極的な参加の度合い（10%）で評価します。
参考文献	『新編日本古典文学全集 竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』小学館 竹岡正夫『伊勢物語全評釈 古注釈十一種集成』右文書院 鈴木日出男編『別冊国文学 竹取物語伊勢物語必携』學燈社、1988年
備考	

講義科目名称：古典文学特講Ⅲ（10291）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	近年、銘尽の始原に遡る竜造寺本が紹介されました。それを踏まえ中世に特徴的な刀剣伝承の概観、成立について、また中世文学、口承文芸との関係について学習します。
授業計画	<p>第1回 導入</p> <p>第2～3回 『劔巻』の紹介</p> <p>第4～8回 軍記の刀剣説話</p> <p>第9～10回 芸能の刀剣説話</p> <p>第11～12回 銘尽諸本</p> <p>第13～14回 口承説話と刀剣説話</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	中世文学の『平家物語』『太平記』には天皇家、源氏に伝はる宝劔、名刀についての説話を載せた『劔巻』が付属します。同様の名劔伝承は『曾我物語』や芸能にもあり、中世人の刀剣の呪力に対する信仰、関心が窺はれます。鍛冶の伝記、作風について記した中世の銘尽にも見える名劔伝承を参考にしながら、名劔伝承がどの様に形成され、中世文学と関連するか考察します。本年度は特に能阿本を中心に考察します。
実務経験及び授業の内容	コピー配ります
時間外学習	日本刀そのものの研究ではありませんが、関連図書を読むのがよいでしょう。
テキスト	レポート（100%）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	建武5年成立で、極初期の銘尽の形態を色濃く残す明德三年本、能阿本写本、弘前より入手した慶長八年本（写）等、銘尽諸本お見せませう。
評価方法	
参考文献	川口陟『定本日本刀劔全史1－8』（絶版） 福永酔劔『日本刀大百科事典1－5』（絶版）
備考	

講義科目名称：近現代文学講読 I (10411)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	田山花袋の小説「重右衛門の最後」「蒲団」を、日本近代文学における諸問題と関連付けながら読解する。特に、1900年前後から1910年前後にかけての風景観（何をもって描くべき「風景」とするか）の変容と、文学として描くべき対象に「私自身」が浮上してくるという「自己表象」の問題について詳しく考察する。授業を通して、単に物語の筋を追うだけではない、文学テキストの精緻な読解、批評的な読解の方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 作家・田山花袋と日本近代文学</p> <p>第3回 「重右衛門の最後」を読む①</p> <p>第4回 「重右衛門の最後」を読む②</p> <p>第5回 「重右衛門の最後」を読む③</p> <p>第6回 「重右衛門の最後」を読む④</p> <p>第7回 小まとめ・1900年前後における「風景」と「自然」の発見</p> <p>第8回 「蒲団」を読む①</p> <p>第9回 「蒲団」を読む②</p> <p>第10回 「蒲団」を読む③</p> <p>第11回 「蒲団」を読む④</p> <p>第12回 「蒲団」を読む⑤</p> <p>第13回 小まとめ・1910年前後における「私」を書く小説の登場</p> <p>第14回 全体まとめ・期末レポートの準備①</p> <p>第15回 期末レポートの準備②</p>
授業概要	教員による講義・解説が7割、履修者による個人作業やディスカッションを3割で進める。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	対象作品の通読を求める。また、毎回ではないが、小説に関する自分の意見をまとめる課題を課すことがある。
テキスト	田山花袋『蒲団・重右衛門の最後』（新潮文庫）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	田山花袋の代表的な2作品を、同時代の文脈を踏まえて読んでいきます。同じ時期に発表された他作家の小説や評論などを積極的に読むことを推奨します。
評価方法	授業後のコメントや課題（50%）、期末レポート（50%）によって評価する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：近現代文学講読Ⅱ（10421）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	西加奈子『円卓』を一度読み通した後、家族と居住空間に関する歴史的な文脈を学び、再び『円卓』を読み直す。到達目標は以下の三つです。①長編小説を読み通す力を身につける。②長編小説を二回読むことで、一回目では気がつかなかった細部を発見する。③歴史的な背景に小説を位置付けることで新たな「読み」を発見する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 映画『家族ゲーム』（1983年）を見る</p> <p>第3回 家族とは何か：「近代家族」論を学ぶ講義</p> <p>第4回 西加奈子『円卓』精読①：</p> <p>第5回 西加奈子『円卓』精読②：</p> <p>第6回 西加奈子『円卓』精読③：</p> <p>第7回 家族と居住空間①：映画『私は二歳』と映画『しとやかな獣』</p> <p>第8回 家族と居住空間②：小説・映画・テレビドラマ『家族ゲーム』</p> <p>第9回 家族と居住空間③：映画『逆噴射家族』</p> <p>第10回 家族と居住空間④：小説・映画『OUT』</p> <p>第11回 家族と居住空間⑤：映画『どこまでもいこう』</p> <p>第12回 映画『円卓、こっこひと夏のイマジン』（2014年）を見る</p> <p>第13回 西加奈子『円卓』精読④</p> <p>第14回 西加奈子『円卓』精読⑤、団地文学の現在</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	西加奈子『円卓』を二回読みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	西加奈子の他の作品も読んでみて下さい。
テキスト	西加奈子『円卓』（文春文庫、500円+税）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	最初の「読み」を大切にしつつ、歴史的な文脈を知ることによって、より楽しく小説を読むことができるようになります。自身の「読み」を積極的に発信して下さい。
評価方法	授業での報告（40%）及び議論への貢献度（20%）、小レポート（40%）
参考文献	授業中に適宜紹介する
備考	

講義科目名称：近現代文学作品研究 I (10431)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
		高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有
授業形態：講義			

授業のテーマ及び到達目標	有島武郎の長編小説『或る女』を、「作者」、「同時代性」、「本文」の問題等、様々なアプローチによって読解する。授業を通して、単に物語の筋を追うだけではない、文学テキストの精緻な読解、批評的な読解の方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 作者から考える</p> <p>第3回 同時代状況を踏まえる①日本近代文学における〈新しい女〉</p> <p>第4回 同時代状況を踏まえる②『青鞥』における〈新しい女〉</p> <p>第5回 前編を精読する①</p> <p>第6回 前編を精読する②</p> <p>第7回 前編を精読する③</p> <p>第8回 前編を精読する④</p> <p>第9回 前編を精読する⑤</p> <p>第10回 先行テキストとの比較から考える①</p> <p>第11回 先行テキストとの比較から考える②</p> <p>第12回 先行テキストとの比較から考える③</p> <p>第13回 後編の諸問題を考える①</p> <p>第14回 後編の諸問題を考える②</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>
授業概要	教員による講義・解説が6割、履修者による個人作業やディスカッションを4割で進めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ対象範囲を読み、提示された課題について自分の意見をまとめる「予習ノート」の提出を課す。
テキスト	有島武郎『或る女』（新潮文庫）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「予習ノート」の取り組みに力を入れて欲しいと思います（詳しい内容については初回時に説明します）。はじめに読んで面白く、あるいはつまらなく思ったところ、わからなかったところ、大事だと思ったところが、講義や他の人とのディスカッションによって、どのように掘り下げられていくのか。皆さん自身の読みの深化・発展を実感してください。
評価方法	授業内課題（30%）、ディスカッションでの発言（20%）、期末レポート（50%）によって評価する。
参考文献	授業中に適宜提示する。
備考	

講義科目名称：近現代文学作品研究Ⅱ（10441）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	川端康成『山の音』を一度読み通した後、川端に関するこれまでの研究成果を学び、再び『山の音』を読みます。到達目標は以下の三つです。①長編小説を読み通す力を身につける。②長編小説を二回読むことで、一回目では気がつかなかった細部を発見する。③文学研究の蓄積を学んだ上で新たな「読み」を発見する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 川端康成とは何者か①：川端康成の幼年・青年期を学ぶ講義</p> <p>第3回 川端康成とは何者か②：川端康成の戦後までの活動を学ぶ講義</p> <p>第4回 川端康成『山の音』精読①</p> <p>第5回 川端康成『山の音』精読②</p> <p>第6回 川端康成『山の音』精読③</p> <p>第7回 川端康成『山の音』精読④</p> <p>第8回 戦後小説としての『山の音』</p> <p>第9回 家族小説としての『山の音』</p> <p>第10回 妊娠小説としての『山の音』</p> <p>第11回 映画『山の音』（1954年）を見る</p> <p>第12回 川端康成『山の音』精読④</p> <p>第13回 川端康成『山の音』精読⑤</p> <p>第14回 川端康成『山の音』精読⑥</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	川端康成『山の音』を二回精読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	川端康成の他の作品も読んでみて下さい。
テキスト	川端康成『山の音』（新潮文庫、670円+税）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	最初の「読み」を大切にしつつ、歴史的な文脈を知ることで、より楽しく小説を読むことができるようになります。自身の「読み」を積極的に発信して下さい。
評価方法	授業での報告（40%）及び議論への貢献度（20%）、小レポート（40%）
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：近現代文学特講 I (10451)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマは〈古雑誌から考える1920年代日本の詩歌〉。1920年代に出版された詩雑誌をもとに、具体的な資料を利用した日本近代文学の応用的な研究方法を学びながら、1920年代の詩歌の展開を把握する。今回は第二次『明星』、『詩神』という、これまでの文学史叙述では詳細に語られることのなかった詩雑誌を扱う。文学史的な知識と現物の資料の読解とを組み合わせながら、この時期の詩のあり方や詩雑誌というメディアのあり方を多面的に理解することを目指す。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 対象とする資料の紹介</p> <p>第2回 研究の方法1 本文の異同をめぐって</p> <p>第3回 研究の方法2 挿絵をどう考える？</p> <p>第4回 研究の方法3 論争を読んでみよう</p> <p>第5回 近代詩歌史概観1 文語自由詩の成立</p> <p>第6回 近代詩歌史概観2 口語自由詩の成立</p> <p>第7回 近代詩歌史概観3 口語自由詩の完成と破壊</p> <p>第8回 第2次『明星』を読む1</p> <p>第9回 第2次『明星』を読む2</p> <p>第10回 第2次『明星』を読む3</p> <p>第11回 第2次『明星』を読む4</p> <p>第12回 『詩神』を読む1</p> <p>第13回 『詩神』を読む2</p> <p>第14回 『詩神』を読む3</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	配布資料とスライドに基づいた講述を中心とする。発言（小スピーチ）や小レポートの提出を求めることがある。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業前：事前に配布された資料の下読みをする。扱われる予定の作品や作家、その他の事項について自分なりに調べておく。授業後：ノートを用いて授業内容を整理する。期末レポートに備えて、授業内で取り上げられた作品や提示された参考文献のいくつかを読み通すことに挑戦する。
テキスト	プリント配布、他授業内指示
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	およそ100年前に出版された雑誌を読みます。詩が好きな人、短歌や俳句が好きな人、古い（といっても100年）資料に触れてみたい人、当時の読者になったつもりでバラバラ見ていきましょう。適宜、詩の解釈等について皆さんの発言を求めます。積極的な受講を期待します。
評価方法	期末レポート（70%）、授業内小レポート（20%）、その他の授業内活動に対する評価（10%）
参考文献	授業内で適宜指示する。
備考	

講義科目名称：近現代文学特講Ⅱ（10461）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	主に「近現代文学」を書かれた歴史的・社会的背景や、映画・アニメ・ゲームなど他のメディアとの関係に目を配りながら読み解いていきます。到達目標は以下の三つです。①小説や映画、アニメの細部を丁寧に読み解くことで、自身の「読み」を作り出す力を身につける。②ディスカッションによって自分の「読み」を発信する力と、他の人の多様な「読み」を聞く力を身につける。③歴史的・社会的・メディア的背景へ目を向けることで、自身の「読み」を別の視点から捉えなおし、相対化する力を身につける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：文学的なことは社会的なこと</p> <p>第2回 「文豪」はつくられる</p> <p>第3回 志賀直哉『暗夜行路』を「戦後」に読む</p> <p>第4回 三島由紀夫は映画に「敗北」したか</p> <p>第5回 「内向の世代」の空間</p> <p>第6回 文学と映画に描かれた病①：堀辰雄『風立ちぬ』</p> <p>第7回 文学と映画に描かれた病②：松本清張『砂の器』</p> <p>第8回 映画『ドグラ・マグラ』（1988年）を見る</p> <p>第9回 文学と映画に描かれた病③：夢野久作『ドグラ・マグラ』</p> <p>第10回 SFの現代性：大江健三郎『治療塔』・『治療棟惑星』</p> <p>第11回 戦争の記憶の「現在」：村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』</p> <p>第12回 映画『息の跡』を見る</p> <p>第13回 3.11震災文学と震災ドキュメンタリー映画：津島佑子『半減期を祝って』と『息の跡』</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 レポート構想発表会</p>
授業概要	戦後以降の小説を多角的に捉えることで、いま小説を読むことの意味について考えたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で扱う作品は可能な範囲で目を通してください。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	高校時代の「国語便覧」があれば用意して下さい。受講生の関心に合わせて可能な限り言及する作家・小説を増やします。授業中に意見を求めるので、積極的な発言を期待します。
評価方法	授業の参加（10%）及び議論への貢献（20%）、レポート（70%）
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	



講義科目名称：日本語文化論 I (10511)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会言語学の基礎的知見を広げることを目標とします。		
授業計画	第1回	導入 身近な言語事象	
	第2回	社会言語学とは何か1 ことばの種類	
	第3回	社会言語学とは何か2 ことばの選択、変化	
	第4回	話し手に根ざしたことば 『となりのトトロ』にみるサツキとメイ、カンタの言葉遣い	
	第5回	役割語と「らしさ」	
	第6回	語用論とface理論 『風の谷のナウシカ』にみる二人のヒロインの言語行動	
	第7回	聞き手にあったことば 『耳をすませば』にみる対人関係の変化とことば	
	第8回	アコモデーションとポライトネス	
	第9回	状況にあったことば 『千と千尋の神隠し』にみる言語選択	
	第10回	場面とことば	
	第11回	話題と機能	
	第12回	伝達方法とことばの選択	
	第13回	日本語の人称表現	
	第14回	文化とことばの変化	
	第15回	まとめと試験	
授業概要	ことばを生きたものにとらえ、時と場合により多様に使い分けられることを研究するのが社会言語学です。リアル社会で使われる等身大の日本語を観察し、またヴァーチャル世界のことばと比較しながら、自身のことばをみつめてみましょう。(受講生数が多いとき、状況により受講生数を制限します。)		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業を踏まえてテキストを読み返し、配布されたプリントを整理して理解するように努めましょう。		
テキスト	石黒圭『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』光文社文庫 840円+税 さわらび会購買部でも販売します。プリントを併用します。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	「上手な」ではなく、「正しい」でもなく、「ふさわしい」日本語とは何か、日本文化におけることば選びの科学について考えましょう。映像作品を視聴します。Microsoft Teamsを併用します。チームコードは履修生に通知します。		
評価方法	試験60%、課題20%、授業への参加度20%。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本語文化論Ⅱ（10521）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマは〈文学で考える「日本語」とは何か〉。近現代の小説作品を中心に、方言が書き込まれたものや、方言で書かれたもの、外国語（戦前においては「外地」の言葉）が登場するものを、時代順に読み解いていく。授業を通して、標準語と方言との関係、日本語と外国語との関係を、文学がどのように描いてきたかを学ぶ。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	近代小説文体の成立まで	
	第3回	井伏鱒二「朽助のいる谷間」における言語のヒエラルキー①	
	第4回	井伏鱒二「朽助のいる谷間」における言語のヒエラルキー②	
	第5回	王昶雄「奔流」における植民地青年の言語とアイデンティティ①	
	第6回	王昶雄「奔流」における植民地青年の言語とアイデンティティ②	
	第7回	〈英語〉から問い直す占領期の日本：小島信夫「アメリカン・スクール」①	
	第8回	〈英語〉から問い直す占領期の日本：小島信夫「アメリカン・スクール」②	
	第9回	告発することば：石牟礼道子『苦海浄土』①	
	第10回	告発することば：石牟礼道子『苦海浄土』②	
	第11回	井上ひさし『吉里吉里人』における告発と転倒の論理①	
	第12回	井上ひさし『吉里吉里人』における告発と転倒の論理②	
	第13回	目取真俊「水滴」におけるウチナーグチとヤマトウグチ①	
	第14回	目取真俊「水滴」におけるウチナーグチとヤマトウグチ②	
	第15回	まとめ	
授業概要	教員による講義・解説7割、履修者による個人作業やディスカッションを3割で進める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業内容によっては、あらかじめ対象テキストを読み、提示された課題について自分の意見をまとめる「予習ノート」の提出を課す。		
テキスト	授業中に適宜指示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「俺達（おらだづ）が独立（どぐりじ）を踏み切（ぎ）ったなあ、日本国（ぬほんのくに）さ愛想（あえそ）もこそも尽き果（はん）てだがらだっちゃ」。山形県川西町出身の作家・井上ひさしの長編『吉里吉里人』に登場するセリフです。文学作品に方言が登場するとき、または作品そのものが方言によって書かれるとき、そこには既存の価値観や体制に対する異議申し立ての意味が強くあらわれます。その威力をぜひ感じ取ってほしいと思います。『吉里吉里人』『苦海浄土』は長編のため、授業では適宜抜粋して読む予定です。興味をもった方は、ぜひ通読にチャレンジしてください。		
評価方法	予習ノートの提出（20%）、授業内の課題や発言（30%）、期末レポート（50%）によって評価する。		
参考文献	授業中に適宜指示する。		
備考			

講義科目名称：国語資料講読 I (10531)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	近世上方語・江戸語・その他の地方語によって書かれた文献について、国語学的に講読する。 Ⅰ いわゆる古典文学とは異なる文章体を扱うが、それぞれの文章様式について理解する Ⅱ 文章のアウトラインを掴み、言葉を逐って読むことに習熟する Ⅲ 近世当時の中央語の流れについて理解する
授業計画	初回 近世語の諸相  1回 初期江戸語資料について  2回 『雑兵物語』の資料性  3回 『雑兵物語』の諸本  4回 『雑兵物語』を読む① 一文末表現に注意して－  5回 『雑兵物語』を読む② 一接続表現に注意して－  6回 『雑兵物語』を読む③ 一東国方言語彙－  7回 『雑兵物語』を読む④ 一上方語的特徴－  8回 『遊子方言』について  9回 『遊子方言』を読む① 一登場人物の言葉遣いに注意して－  10回 『遊子方言』を読む② 一奴言葉について－  11回 『遊子方言』を読む③ 一『雑兵物語』と比較しながら－  12回 近世上方語の洒落本について  13回 洒落本『異本郭中奇譚』を読む① 一上方語の特徴に注意して－  14回 洒落本『異本郭中奇譚』を読む② 一『遊子方言』と比較して－  15回 まとめ
授業概要	授業担当者による講読と、受講生による輪読と、併行して進めます。受講生による輪読では、テキストを音読し、概要についての理解を促します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回授業の概要について毎時終了直前に予告しますので、指定テキストを事前に読み、難解な点について抽出しておいてください。授業後はテキストを読み返し、本文理解の定着に努めてください。
テキスト	必要に応じて印刷し適切な折に配付します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業担当者による講読では、トピックごとに整理しながら読むこととし、受講生にも担当範囲を事前に決めて読むように、計画的に進めたいと思います。
評価方法	レポート提出を求め、それにより(100%)評価いたします。
参考文献	『日本語学研究事典』（明治書院） 『日本語大事典』（朝倉書院）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	書翰文の様式、使用される言葉遣いの性質について、理解を深めることをテーマに据え、以下3点の目標を掲げる。 Ⅰ 近世書状(私的文章)に使われる待遇表現について理解する Ⅱ 古典語と近代語との時代差による意味・用法の差異について理解する Ⅲ 原本の影印資料に触れ、連綿体の文字が解読できる
授業計画	初回 書翰文の様式 授業計画・評価方法の説明および変体仮名・草書体についての説明 2回 藤井高尚の事蹟と『消息文例』 国学者としての藤井高尚の事蹟について 3回 本居宣長による序文と鳥越常成による跋文とを読む 本居宣長との師弟関係について 4回 凡例を読む 『消息文例』執筆の動機について 5回 「文におのが事を言ふ例」 書き言葉における自称の表現について 6回 「文にさきの人の事を言ひ遣る例」 書き言葉における対称の表現について 7回 「候ふ 侍り」 丁寧語二つの消長について 8回 「思ひたまへ」 古典語で誤りやすい二つの敬讓動詞について 9回 「申す 聞ゆ」 謙讓語二つの差異を関係規定性から捉える 10回 「せ させ」 尊敬辞の使い方について 11回 「奉る」 謙讓語動詞の生成と展開について 12回 「御」 敬語接頭辞について 13回 「仕うまつる」「まゐらせ まゐる」 進上スル意の謙讓語について 14回 「御覧ず」「ものす」 漢語尊敬動詞と書翰文に多用される動詞について 15回 まとめと口頭試問についての説明
授業概要	藤井高尚『消息文例』を採り上げ、上巻を中心に、併せて関連事項を下巻から拾い読みし、原文の解説を行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回授業の概要について、毎時終了直前に触れるので、指定テキストについて事前に読み、難解な部分について抽出しておいてください。授業終了後は、再びテキストを読み返し、理解の定着に努めてください。
テキスト	和泉書院影印叢刊『消息文例』（2,200円・税込）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	影印資料は馴れさえすれば読めるようになるので、根気よく読むことに集中してください。当然ですが、指定テキストは必ず入手してください。（持たないで授業に参加しても無意味です。）
評価方法	試験期間中に行う口頭試問（100％）により評価します
参考文献	久曾神昇『平安時代仮名書状の研究』（風間書房） 『岩波講座日本語4 敬語』（岩波書店） 『講座国語史5 敬語史』（大修館書店） 『国語学叢書13 敬語』（東京堂出版）
備考	

講義科目名称：国語学特講（10550）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
		高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有

授業のテーマ及び到達目標	授業のテーマ：「国語学・日本語学」とはどういう領域の学問か、全体像を把握する 授業の到達目標：「国語学概論」の内容を承け、日本語学の基礎的な知見をより確かなものにする
授業計画	<p>第1回 言語と人間 導入 言語の特質・言語の機能・脳の言語中枢について講義</p> <p>第2回 日本語の音声と音韻1（単音と音素） 音声学と音韻論について講義</p> <p>第3回 日本語の音声と音韻2（音声器官と調音） 子音の特徴をめぐって音声器官と調音について講義</p> <p>第4回 日本語の音声と音韻3（子音と歴史的変容） 音声・音韻史の一例について講義</p> <p>第5回 日本語の音声と音韻4（かぶせ音素） 主にアクセントのこと</p> <p>第6回 日本語の文字表記1（日本語表記の特徴） 漢字仮名まじり表記の特徴について</p> <p>第7回 日本語の文字表記2（漢字と仮名） 漢字と仮名の歴史</p> <p>第8回 日本語の文字表記3（仮名の諸相と仮名遣い） 主に仮名遣いのこと</p> <p>第9回 日本語の語彙1（語彙調査・語の意味・類語） 主に語の意味のこと</p> <p>第10回 日本語の語彙2（語種と語構成） 主に語構成法のこと</p> <p>第11回 日本語の語彙3（語の位相） 日本語の位相について講義</p> <p>第12回 日本語の文法1（学校文法と文節文論） 学校文法の限界と現代語文法論[学説]</p> <p>第13回 日本語の文法2（現代日本語の文法） 現代語文法論</p> <p>第14回 日本語の文法3（敬語とその歴史） 敬語の性格・歴史的展開</p> <p>第15回 日本語の方言 方言と標準語・方言分布について</p>
授業概要	テキストおよび配付資料を基に国語学・日本語学の研究分野についての基礎的・全般的内容を講述する。テーマごとに確認レポートを課し、受講生の理解度を確認しながら授業を進める。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回授業の概要について毎時終了時に触れるので、指定テキストについて事前に読み、難解な部分について抽出しておくこと。授業終了後再びテキストを読み直し、重要項目について整理し、さらに練習問題で理解度を確認しておくこと。
テキスト	藤田保幸著『緑の日本語学教本』・A5判・並製・カバー装（緑）・171頁・1,430円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	編入学希望者で、編入学試験に日本語学関連の専門科目が課される方は受講なさるとよいと思います。学年指定はありませんが、履修はぜひ2年次でお願いしたいと思います。各回に行う確認レポートが理解の助けになったとの意見が寄せられましたため、今年度もテーマごとに行います。
評価方法	毎時間に実施する確認レポートの状況（5割） 試験期間中に行う筆記試験（5割）
参考文献	『日本語学研究事典』（明治書院） 『日本語学キーワード事典』（朝倉書店） 『日本語百科大事典』（大修館書店）
備考	

講義科目名称：日本語文書・表現プログラム（10560）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
田中 宣廣			

授業のテーマ及び到達目標	<p>①社会人として必要なコミュニケーションの意義が理解できる。                  ②コミュニケーションと文章表現の関係について理解できる。                  ③現在の論文やレポート作成の主流であるパソコンを使った作成法が理解できる                  ④社会人として、日本語のさまざまな社会的書き方の社会的役割を正しく認識し、理解できる。                  ⑤学術論文の構成法の基本について理解できる。                  ⑥パソコン利用に必要な日本語の文字の成り立ちやローマ字の仕組みについて理解できる。</p>
授業計画	<p>第1回 社会文書編1：コミュニケーションの意義と目的別「社会的文書」作成・使用</p> <p>第2回 社会文書編2：就職活動における企業と学生との関わり方</p> <p>第3回 社会文書編3：「履歴書」作成法の注意点</p> <p>第4回 社会文書編4：就職志望動機文・エントリーシート・編入学志望理由文の構成</p> <p>第5回 社会文書編5：「手紙」の書き方と発送、「Eメール」の構成法と送信</p> <p>第6回 学生論文編1：パソコン利用論文作成のメリットとその活用法</p> <p>第7回 学生論文編2：文章の階層構造とその表示法</p> <p>第8回 学生論文編3：読み手が理解しやすい文章の構成とその留意点</p> <p>第9回 学生論文編4：図表の作成と効果的提示法</p> <p>第10回 学生論文編5：パソコンの基本操作とファイル管理やバックアップの重要性</p> <p>第11回 学生論文編6：入門的論文としての卒業論文の構成例＋注釈の効果的使用法</p> <p>第12回 基本要素編1：文字の定義、「漢字」の構成</p> <p>第13回 基本要素編2：日本の文字の成り立ち</p> <p>第14回 基本要素編3：「ひらがな」と「カタカナ」</p> <p>第15回 基本要素編4：日本のローマ字＝5種類 ～まとめ：社会人となる心構え</p>
授業概要	<p>①社会人として必要なコミュニケーションの意義を学習します。②コミュニケーションと文章表現の関係について学習します。③現在の論文やレポート作成の主流であるパソコンを使った作成法を学習します。④学術論文の構成法の基本について学習します。⑤パソコン利用に必要な日本語の文字の成り立ちやローマ字の仕組みについて学習します。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	各授業回の講義内容の整理
テキスト	教員作成印刷配布資料を用い、投影資料（パワーポイントなど）により進めます。また、必ず、この科目専用のノートを用意してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	社会人の文章として格式があつて型式が整えられ、しかも、明解な文書表現を学びます。特に、パソコンを使った効果的な論文やレポートの書き方は、今や常識として学んでおく必要があります。
評価方法	毎時限ごとに、「レポートシート」に記入し、提出していただきます。評価は、学修姿勢（レポートシートの内容や受講態勢など）により考査します。
参考文献	田中宣廣他（2011）『講座ITと日本語研究 第1巻 コンピュータ利用の基礎知識』（明治書院）
備考	可能な人は、ノートパソコンを持参してください。（無線インターネット接続可能ならより良い）集中講義なので、試験、もしくは、（時間の掛かる）レポートは課しません。

講義科目名称：漢文学概説（10600）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 漢文学入門</p> <p>&lt;到達目標&gt; ・漢文を訓読によって解釈するために必要な基礎知識を身に付ける。 ・漢文学が日本語や日本人に与えた影響について知見を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 漢文・漢文学の定義と漢字・漢語(熟語)の基礎知識</p> <p>第3回 漢文の基本構造と訓読法(返り点の用法と種類・書き下し文・置き字)</p> <p>第4回 句法の基本型：再読文字・使役形・受身形</p> <p>第5回 句法の基本型：否定形</p> <p>第6回 句法の基本型：疑問形・反語形</p> <p>第7回 句法の基本型：願望形・推量形</p> <p>第8回 句法の基本型：仮定形・比較形・抑揚形</p> <p>第9回 句法の基本型：限定形・詠嘆形・倒置形・累加形</p> <p>第10回 近体(今体)詩の修辞法</p> <p>第11回 日本人と漢文学：上代、平安前期</p> <p>第12回 日本人と漢文学：平安後期、鎌倉・室町</p> <p>第13回 日本人と漢文学：江戸前期</p> <p>第14回 日本人と漢文学：江戸後期</p> <p>第15回 日本人と漢文学：明治以降</p>
授業概要	10回目までは、漢文を訓読によって解釈するために必要な基礎事項を学んだ上で練習問題に取り組んでもらい、基礎知識の確認・定着を図ります。11回目以降は、日本における漢文学の歴史を概観し、漢文学が日本語や日本人に与えた影響について考えていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業後には必ず復習を行い、十分に理解を深めること。なお、10回目までは配布プリントの原文について、あらかじめ辞書等で調べ、書き下し文及び現代語訳を準備しておくこと。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	高校での既習・未習を問わず、この機会に漢文学の基礎をしっかりと身に付けたいと考える学生の積極的な受講を期待します。
評価方法	学期末の試験(70%)、授業時の取り組む姿勢(30%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書及び漢和辞典(電子辞書も可)を持参してください(2回～10回)。

講義科目名称：漢文学講読（10611）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 中国古典文学の世界</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓点(返り点・送りがな)付きの漢文の正確な書き下し、解釈ができるようになる。</li> <li>・日本人や日本文学に有形無形の影響を与えてきた中国古典文学の概要を把握するとともに、作品が書かれた、それぞれの時代の社会や文化に対する理解を深める。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 『史記』淮陰侯列伝から</p> <p>第3回 『論語』から</p> <p>第4回 『老子』から</p> <p>第5回 『莊子』から</p> <p>第6回 東晋・陶淵明「桃花源記」「五柳先生伝」</p> <p>第7回 東晋・王羲之「蘭亭序」</p> <p>第8回 唐・李白「春夜宴桃李園序」、唐・韓愈「雑説一」</p> <p>第9回 唐・韓愈「雑説二・三・四」</p> <p>第10回 唐・柳宗元「種樹郭タク駝伝」</p> <p>第11回 唐・柳宗元「種樹郭タク駝伝」</p> <p>第12回 北宋・欧陽脩「醉翁亭記」</p> <p>第13回 北宋・欧陽脩「醉翁亭記」</p> <p>第14回 明・李贄「童心説」</p> <p>第15回 明・李贄「童心説」</p>
授業概要	中国古典文学の中から、古来、日本人にも親しまれてきた著名な散文作品を中心に幾つかを取り上げ、それらを講読していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ辞書等を利用して、自分なりの書き下し文と現代語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い、十分に理解を深めること。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	開始から数回は教員主導で読み進めていきますが、要領が分かってきた頃合いを見計って、受講者にも訓読や現代語訳に参加してもらいます。訓読能力を高めたい、或いはその必要がある学生の積極的な受講を期待します。
評価方法	学期末の試験(60%)、授業時の発表や取り組む姿勢(40%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参して下さい。



講義科目名称：漢文学作品研究（10621）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 「唐代伝奇」小説の世界</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓点(返り点・送りがな)付きの漢文の正確な書き下し、解釈ができるようになる。</li> <li>・現代とは異なる、当時の人々のものの考え方や感じ方について理解を深める。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 「離魂記」</p> <p>第3回 「離魂記」</p> <p>第4回 「李徴(人虎伝)」</p> <p>第5回 「李徴(人虎伝)」</p> <p>第6回 「李徴(人虎伝)」</p> <p>第7回 「板橋三娘子伝」</p> <p>第8回 「定婚店」</p> <p>第9回 「定婚店」</p> <p>第10回 「杜子春伝」</p> <p>第11回 「杜子春伝」</p> <p>第12回 「杜子春伝」</p> <p>第13回 「枕中記」</p> <p>第14回 「枕中記」</p> <p>第15回 「枕中記」</p>
授業概要	芥川龍之介の「杜子春」や中島敦の「山月記」などの日本の近代文学にも影響を与えた、唐代文人の手に成る短編小説、「唐代伝奇」の中から数篇を取り上げ、講読していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ辞書等を利用して、自分なりの書き下し文と現代語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い、十分に理解を深めること。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	開始から数回は教員主導で読み進めていきますが、要領が分かってきた頃合いを見計って、受講者にも訓読や現代語訳に参加してもらいます。訓読能力を高めたい、或いはその必要がある学生の積極的な受講を期待します。
評価方法	学期末の試験(60%)、授業時の発表や取り組む姿勢(40%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参して下さい。

講義科目名称：漢文学専門ゼミ I (10631)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 実践的な漢文訓読力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培う。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・句読点のみ、或いは句読点及び返り点のみの漢文を正確に訓読、解釈できる。</li> <li>・問題に対する的確な記述答案が作成できる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第3回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第4回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第5回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第6回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第7回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第8回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第9回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第10回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第11回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第12回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第13回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第14回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第15回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p>
授業概要	<p>四年制大学の編入学試験の漢文の問題は、学校によっては句読点、或いは句読点及び返り点しか付されていない文章が出題されるため、それなりの漢文訓読能力が必要になります。授業では編入学試験の過去問や類題の演習、解答・解説を積み重ねることを通して、実践的な漢文訓読力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培っていきます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>毎回問題演習をしてもらう形で行うので予習は必要ありませんが、授業後は必ず速やかに復習を行い、漢文訓読の基本事項の確認や、記述問題の解き直し等を十分に行ってください。</p>
テキスト	<p>プリントを配布します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>四年制大学の編入学試験で漢文が出題される学校の受験を考えている学生を主たる対象とする授業ですが、そうでない学生でも、漢文をより読めるようになりたい、記述問題に的確に解答できるようになりたいと思う人がいれば受講を歓迎します。</p>
評価方法	<p>学期末の試験(50%)、授業時の取り組む姿勢(50%)をあわせて評価します。</p>
参考文献	<p>必要に応じてその都度指示します。</p>
備考	<p>高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参して下さい。</p>

講義科目名称：漢文学専門ゼミⅡ（10641）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 実践的な漢文訓読能力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培う。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・句読点のみ、或いは句読点及び返り点のみの漢文でも正確に訓読、解釈できる。</li> <li>・問題に対する的確な記述答案が作成できる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第3回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第4回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第5回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第6回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第7回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第8回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第9回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第10回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第11回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第12回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第13回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第14回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p> <p>第15回 編入学試験過去問ないし類題の演習、解答・解説</p>
授業概要	<p>四年制大学の編入学試験の漢文の問題は、学校によって句読点、或いは句読点及び返り点しか付されていない文章が出題されるため、それなりの漢文訓読能力が必要になります。授業では編入学試験の過去問や類題の演習、解答・解説を積み重ねることを通して、実践的な漢文訓読力を身に付けるとともに、記述問題に的確に解答できる文章表現力を培っていきます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>毎回問題演習をしてもらう形で行うので予習は必要ありませんが、授業後は必ず速やかに復習を行い、漢文訓読の基本事項の確認や、記述問題の解き直し等を十分に行ってください。</p>
テキスト	<p>プリントを配布します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>四年制大学の編入学試験で漢文が出題される学校の受験を考えている学生を主たる対象とする授業ですが、そうでない学生でも、漢文をより読めるようになりたい、記述問題に的確に解答できるようになりたいと思う人がいれば受講を歓迎します。</p>
評価方法	<p>学期末の試験(50%)、授業時の取り組む姿勢(50%)をあわせて評価します。</p>
参考文献	<p>必要に応じてその都度指示します。</p>
備考	<p>高校等で使用した「漢文文法」の教科書及び漢和辞典(電子辞典も可)を毎回持参して下さい。</p>

講義科目名称：漢文学特講（10650）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 中国文学史</p> <p>&lt;到達目標&gt; 先秦から唐代に至る中国文学の歴史を学ぶことを通して、中国文学各ジャンルの特色とその盛衰についての知識を得、併せて日本の文化・文学に与えた影響について知見を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、一、序論 (1)中国文学の特質 (2)〈言志派〉と〈載道派〉・〈達意主義〉と〈修辞主義〉(3)時代区分・日本との関係</p> <p>第2回 二、先秦時代の文学 (1)神話 (2)詩経 (3)散文の起源と展開「書経」「易経」</p> <p>第3回 二、秦漢時代の文学 (3)散文の起源と展開「諸子百家の散文」「孔子」「孟子」「韓非子」「老子」「荘子」「春秋左氏伝」「国語」「戦国策」(4)楚辞</p> <p>第4回 三、秦漢の散文 (1)秦 (2)漢「史記」「班固」「漢書」「論衡」</p> <p>第5回 四、漢代の韻文学 (1)駢文の起源 (2)辞賦・楽府・古詩十九首 (3)辞賦</p> <p>第6回 四、漢代の韻文学 (4)楽府 (5)古詩 (6)古詩十九首</p> <p>第7回 五、魏晉南北朝の文学 (1)建安の文学「曹操」「曹丕」「曹植」「竹林の七賢」</p> <p>第8回 五、魏晉南北朝の文学 (2)晋の詩「陶淵明」「謝靈運」</p> <p>第9回 五、魏晉南北朝の文学 (3)齊・梁の宮廷文学「『文選』」「駢文」「文学評論」「小説」</p> <p>第10回 六、隋・唐の文学 (1)隋の文学 (2)唐代文学「初唐の詩」</p> <p>第11回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「盛唐の詩」「李白」「絶句について」</p> <p>第12回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「杜甫」「その他の盛唐の詩人」</p> <p>第13回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「中唐の詩文」「韓愈」「柳宗元」</p> <p>第14回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「白居易」</p> <p>第15回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「晩唐の詩人」「小説」「唐の詞と五代の詞」</p>
授業概要	テキストに沿いながら、必要に応じて資料を交え、先秦から唐代に至る中国文学の歴史を概観していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業後には必ず授業時のノートやメモを参照しながらテキストを読み直し、理解の定着を図ること。
テキスト	佐藤一郎[著]『中国文学史』（慶應義塾大学出版社） 1,320円（税込価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国文学に興味関心のある学生は勿論、四年制大学への編入試験で中国文学や文学史に関する知識が必要となる学生の積極的な参加を期待します。
評価方法	学期末のレポート(80%)、授業時の取り組む姿勢(20%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	

講義科目名称：古典文学演習 I A (10711)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	発表担当者による『源氏物語』 「御法」 巻の輪読と研究発表を通じて、作品の主題や作中人物造型、表現構造を探求します。
授業計画	<p>第1回 導入、『源氏物語』概説</p> <p>第2回 『源氏物語』の研究方法</p> <p>第3回 『源氏物語』 「御法」 巻の輪読発表・例1 一紫の上の出家願望と光源氏の出家観－</p> <p>第4回 「御法」 巻の輪読発表・例2 一紫の上の法華経千部供養－</p> <p>第5回 「御法」 巻の輪読発表一紫の上と明石の君の贈答歌－</p> <p>第6回 「御法」 巻の輪読発表一紫の上と花散里の贈答歌－</p> <p>第7回 「御法」 巻の輪読発表一紫の上の病状と明石中宮の退下－</p> <p>第8回 「御法」 巻の輪読発表一紫の上の遺言－</p> <p>第9回 「御法」 巻の輪読発表一明石中宮の見舞い－</p> <p>第10回 「御法」 巻の輪読発表一紫の上の「露」の辞世歌－</p> <p>第11回 「御法」 巻の輪読発表一紫の上の死－</p> <p>第12回 「御法」 巻の輪読発表一紫の上の落飾－</p> <p>第13回 「御法」 巻の輪読発表一紫の上の死の表現と夕霧－</p> <p>第14回 「御法」 巻の輪読発表一紫の上の葬送－</p> <p>第15回 「御法」 巻の輪読発表一光源氏の追慕と述懐－</p>
授業概要	「御法」巻は、物語の第二部終盤、光源氏の最愛の妻・紫の上の仏道への思いと死を語る巻であり、『源氏物語』全体の問題が濃縮されています。注釈書を比較検討しながら原文に向き合い、作品の正確な理解を踏まえて、自らの解釈に至ること、そして自分の研究テーマを開拓し、卒業研究に繋げることを目的とします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	輪読発表は、発表日の3・4週間前から調査・研究を始めて下さい。発表の一週間前には事前指導を受けて下さい。
テキスト	玉上琢彌『源氏物語 第7巻』（角川ソフィア文庫）、840円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品の読解は受講者全員が意見を出し合い、切磋琢磨することによって深まります。積極的な研究と質疑応答への参加を期待します。
評価方法	研究発表（30%）、レポート（60%）、授業への傘下の度合い（10%）で評価する。
参考文献	『新編日本古典文学全集 源氏物語①～⑥』小学館 玉上琢彌『源氏物語評釈』全12巻、角川書店 林田孝和他編『源氏物語事典』大和書房 その他、授業中に指示します。
備考	

講義科目名称：古典文学演習 I B (10712)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	個人の研究発表を通して平安文学作品の読解を深め、卒業研究につなげます。
授業計画	<p>第1回 研究発表の方法ー平安文学研究の一例ー</p> <p>第2回 受講者による研究発表①</p> <p>第3回 受講者による研究発表②</p> <p>第4回 受講者による研究発表③</p> <p>第5回 受講者による研究発表④</p> <p>第6回 受講者による研究発表⑤</p> <p>第7回 受講者による研究発表⑥</p> <p>第8回 受講者による研究発表⑦</p> <p>第9回 受講者による研究発表⑧</p> <p>第10回 受講者による研究発表⑨</p> <p>第11回 受講者による研究発表⑩</p> <p>第12回 受講者による研究発表⑪</p> <p>第13回 受講者による研究発表⑫</p> <p>第14回 受講者による研究発表⑬</p> <p>第15回 研究のまとめ</p>
授業概要	個人の研究発表を通じて平安文学の世界を探求します。（前期の研究発表を継続、発展させても構いません。）
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃から研究のことを心に掛け、発表日の一週間前には事前指導を受けて臨んで下さい。
テキスト	玉上琢彌『源氏物語 第7巻』（角川ソフィア文庫）、840円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	研究は時間をかけて積み重ねるほど良いものに仕上がります。一つの作品に腰を据えてじっくりと向き合い、各作中人物の心情に寄り添い、多角的な視点を持って作品分析、主題の探求を進めて下さい。
評価方法	研究発表（30％）、レポート（60％）、授業への参加の度合い（10％）で評価する。
参考文献	『新編日本古典文学全集 源氏物語①～⑥』小学館 玉上琢彌『源氏物語評釈』全12巻、角川書店 林田孝和他編『源氏物語事典』大和書房 その他、授業中に紹介する。
備考	

講義科目名称：古典文学演習ⅡA（10721）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世の代表的物語『酒天童子』より派生した『伊吹童子』の内容を読み解き、民間伝承、他の古典・説話を参照しその成立の諸問題を考察します。
授業計画	<p>第1回 導入 酒天童子とは何者か？ 伊吹童子諸本 大英博物館本・東洋大本・国会本・赤木本</p> <p>第2回 酒天童子物語との関連</p> <p>第3回 伊吹童子発表のため諸道具、参考書について</p> <p>第4回 受講生の発表1</p> <p>第5回 受講生の発表2</p> <p>第6回 受講生の発表3</p> <p>第7回 受講生の発表4</p> <p>第8回 受講生の発表5</p> <p>第9回 受講生の発表6</p> <p>第10回 受講生の発表7</p> <p>第11回 受講生の発表8</p> <p>第12回 受講生の発表9</p> <p>第13回 受講生の発表10</p> <p>第14回 受講生の発表11</p> <p>第15回 『伊吹童子』まとめ</p>
授業概要	酒天童子の前半生を語る『伊吹童子』を通読、宛てられた箇所を各自読解し、『伊吹童子』諸本、中世の物語・民俗信仰との関係等の諸問題を考へる発表をします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業では取り上げない『伊吹童子』諸本、『酒天童子』、関連文献（土蜘蛛草子、「太平記」巻32「鬼丸鬼切事」等）、関連物語（鈴鹿草子、俵藤太物語等）の参照。口承文芸、民間信仰等、幅広く知見を広めること
テキスト	大英図書館蔵『伊吹童子』
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中世以降、最近まで源頼光の酒天童子は、子供達や大人にとつても血肉沸き踊る物語でした。その伝統が途絶してゐる現在、改めてこの物語の内容に触れ、楽しむと共に、その危険な魅力に触れ、様々な中世物語や鬼退治の民間伝承との関係について考へていきます。
評価方法	演習の発表（100％）一人1－2回発表です。
参考文献	佐竹昭広『酒天童子異聞』、高橋昌明『酒天童子の誕生』
備考	

講義科目名称：古典文学演習ⅡB（10722）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世の代表的物語『酒天童子』の内容を読み解き、その成立の諸問題を考察します。		
授業計画	第1回	導入 酒天童子とは何者か？	伊吹童子諸本 大英博物館本・東洋大本・国会本・赤木本
	第2回	酒天童子諸本について	香取本・サントリー本・中京大本・呆犬齋本
	第3回	酒天童子関連物語・伝説の展開	
	第4回	酒天童子発表のため諸道具、発表の形式について	
	第5回	受講生の発表1	
	第6回	受講生の発表2	
	第7回	受講生の発表3	
	第8回	受講生の発表4	
	第9回	受講生の発表5	
	第10回	受講生の発表6	
	第11回	受講生の発表7	
	第12回	受講生の発表8	
	第13回	受講生の発表9	
	第14回	受講生の発表10	
	第15回	総論－酒天童子とは何者か	
授業概要	酒色に耽溺する酒天童子を退治する源頼光一行の冒険を通読、宛てられた箇所を各自読解し、中世の物語・民俗信仰との関係から、成立等の諸問題を考へる発表をします。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	香取本、サントリー本、中京大本の精読対照、関連文献（『伊吹童子』、土蜘蛛草子、「太平記」巻32「鬼丸鬼切事」等）、関連物語（鈴鹿草子、俵藤太物語等）の参照。口承文芸、民間信仰等、幅広く知見を広めること		
テキスト	渋川版『酒天童子』		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中世以降、最近まで源頼光の酒天童子は、子供達や大人にとつても血肉沸き踊る物語でした。その伝統が途絶してゐる現在、改めてこの物語の内容に触れ、楽しむと共に、その危険な魅力に触れ、様々な中世物語や鬼退治の民間伝承との関係について考へていきます。 呆犬齋文庫蔵の各種『酒天童子』絵巻・資料をお見せいたします。		
評価方法	演習の発表（100%）一人1－2回発表です。		
参考文献	佐竹昭広『酒天童子異聞』、高橋昌明『酒天童子の誕生』		
備考			



講義科目名称：近現代文学演習 I A (10731)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	夏目漱石『こころ』についての代表的な評論や学術論文を、演習形式で読んでいく。それらの下敷きになっている思想や理論、テキスト分析の方法を理解することで、文学テキストの研究方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 山崎正和「淋しい人間」を読む</p> <p>第3回 作田啓一「師弟のきずな」を読む</p> <p>第4回 石原千秋「眼差としての他者」を読む</p> <p>第5回 小森陽一「『こころ』を生成する心臓」を読む</p> <p>第6回 押野武志「静は果たして知っていたのか」、赤間亜生「〈未亡人〉という記号」を読む</p> <p>第7回 平野芳信「最初の夫の死ぬ物語」を読む</p> <p>第8回 堀井一摩「メランコリーを生成する「心臓」」を読む</p> <p>第9回 履修者による研究発表①</p> <p>第10回 履修者による研究発表②</p> <p>第11回 履修者による研究発表③</p> <p>第12回 履修者による研究発表④</p> <p>第13回 履修者による研究発表⑤</p> <p>第14回 履修者による研究発表⑥</p> <p>第15回 履修者による研究発表⑦</p>
授業概要	各回担当者による発表と、それを踏まえたディスカッションを中心とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	対象テキスト及びそれに関する文献を読み、自分なりの意見をもって授業に臨むこと。
テキスト	夏目漱石『こころ』（新潮文庫）、石原千秋編『夏目漱石『こころ』をどう読むか』（河出書房新社）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	各時代ごとの代表的な『こころ』論を読むことで、『こころ』をより面白く読んでいきましょう。「文学作品はこんなに多様な視点から読めるのか!」ということを感じ取ってもらえればと思います。同時にオリジナリティあふれる卒業論文を書くための、論文の読み方、先行研究のまとめ方、問題設定の方法についても学んでいきます。
評価方法	発表（30%）、授業中の取り組みや発言（20%）、期末レポート（50%）によって評価する。
参考文献	
備考	

講義科目名称：近現代文学演習 I B (10732)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	夏目漱石『三四郎』についての代表的な評論や学術論文を、演習形式で読んでいく。それらの下敷きになっている思想や理論、テキスト分析の方法を理解することで、文学テキストの研究方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 前田愛「夏目漱石『三四郎』」を読む</p> <p>第3回 千種キムラ・ステイーブン「『三四郎』論の前提」を読む</p> <p>第4回 石原千秋「鏡の中の『三四郎』」を読む</p> <p>第5回 履修生による研究発表①</p> <p>第6回 履修生による研究発表②</p> <p>第7回 履修生による研究発表③</p> <p>第8回 履修生による研究発表④</p> <p>第9回 履修生による研究発表⑤</p> <p>第10回 履修生による研究発表⑥</p> <p>第11回 履修生による研究発表⑦</p> <p>第12回 藤森清「青春小説の性／政治的無意識」を読む</p> <p>第13回 飯田祐子「『三四郎』—美禰子と〈謎〉」を読む</p> <p>第14回 生方智子「『三四郎』『青年』—表象する〈青年〉たち」を読む</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	各回担当者による発表と、それを踏まえたディスカッションを中心とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	対象テキスト及びそれに関する文献を読み、自分なりの意見をもって授業に臨むこと。
テキスト	夏目漱石『三四郎』（新潮文庫）、石原千秋編『夏目漱石『三四郎』をどう読むか』（河出書房新社）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	各時代ごとの代表的な『三四郎』論を読むことで、『三四郎』をより面白く読んでいきましょう。「文学作品はこんなに多様な視点から読めるのか!」ということを感じ取ってもらえればと思います。同時にオリジナリティあふれる卒業論文を書くための、論文の読み方、先行研究のまとめ方、問題設定の方法についても学んでいきます。
評価方法	発表（30%）、授業中の取り組みや発言（20%）、期末レポート（50%）によって評価する。
参考文献	
備考	

講義科目名称：近現代文学演習ⅡA（10742）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	演習形式で現代社会とメディアに関する文献と論文、小説を読みます。到達目標は以下の二つです。①現代社会を読みとく視座と文学作品の読み方を学ぶ。②議論に参加することによって自身の考えを発信する力と他者の考えを聞く力を身につける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 映画『TIME /タイム』（2011年）を見る</p> <p>第3回 プレゼンテーションを学ぶ</p> <p>第4回 調査の方法を学ぶ</p> <p>第5回 文献購読①：石田英敬『自分と未来の作り方』第1回～第2回</p> <p>第6回 文献購読②：石田英敬『自分と未来の作り方』第3回～第4回</p> <p>第7回 文献購読③：石田英敬『自分と未来の作り方』第5回、全体のまとめ及び補足</p> <p>第8回 文献購読④：阿部公彦『小説的思考のススメ』第7章</p> <p>第9回 文献購読⑤：阿部公彦『小説的思考のススメ』第6章</p> <p>第10回 文献購読⑥：阿部公彦『小説的思考のススメ』第4章</p> <p>第11回 個人発表①</p> <p>第12回 個人発表②</p> <p>第13回 個人発表③</p> <p>第14回 個人発表④</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。また、毎授業の始めには数名に気になる小説、映画、アニメ、ゲーム、動画、ニュース等について簡単な発表をしてもらいます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	石田英敬『自分と未来の作り方（岩波ジュニア新書、780円+税）、その他はプリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分の周りにあるメディアに意識を向けるようにしてください。小説を読む力は、自分の周りの世界を読む力でもあります。
評価方法	授業中の報告（30%）及び議論への貢献度（30%）、期末レポート（40%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：近現代文学演習ⅡB（10743）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
今井 瞳良			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	演習形式で三島由紀夫『金閣寺』を読んでいくとともに、作品分析について学びます。授業の後半では、各自で作品を選び、分析を発表してもらいます。到達目標は以下の三つです。①文学作品の精読を通して、作品分析の方法を学ぶ。②作品分析を実践して、自身の「読み」を作り出す。③自身の「読み」を他者に理解できるよう伝える。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 論文の書き方を学ぶ</p> <p>第3回 映画『炎上』（1958年）を見る</p> <p>第4回 三島由紀夫『金閣寺』を読む①</p> <p>第5回 三島由紀夫『金閣寺』を読む②</p> <p>第6回 三島由紀夫『金閣寺』を読む③</p> <p>第7回 三島由紀夫『金閣寺』を読む④</p> <p>第8回 個人発表①</p> <p>第9回 個人発表②</p> <p>第10回 個人発表③</p> <p>第11回 個人発表④</p> <p>第12回 個人発表⑤</p> <p>第13回 卒業研究発表会①</p> <p>第14回 卒業研究発表会②</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	報告者による報告をベースに演習形式で学習します。また、毎授業の始めには数名に気になる小説、映画、アニメ、ゲーム、動画、ニュース等について簡単な発表をしてもらいます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告者以外も文献には目を通し、分からないところや疑問点をまとめてくる。
テキスト	三島由紀夫『金閣寺』（新潮文庫、670円+税）、その他はプリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	テキスト以外の三島由紀夫の小説や映画化作品などを調べてみて下さい。作品を読んで自分が感じたことを大切にしつつ、なぜ自分がそこに関心を持ったのか考え抜きましょう。
評価方法	授業中の報告（30%）及び議論への貢献度（30%）、期末レポート（40%）
参考文献	演習の中で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：国語学演習 I A (10751)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	近世庶民の話し言葉について理解することをテーマとして、以下2点目標を定める。 I いわゆる戯作文学について文体に馴れる II 近世版本の様式に馴れ、連綿体の文章が読めるようになる
授業計画	初回 江戸後期の戯作小説 2回 十返舎一九とその作品について 3回 一九の言語観について 4回 近世名古屋方言について 5回 『四篇の綴足』について 6回 『四篇の綴足』序文を読む 7回 『四篇の綴足』凡例を読む 8回 『四篇の綴足』上を読む① 一弥次郎・喜多八登場の場面 9回 『四篇の綴足』上を読む② 一宮駅界限 10回 『四篇の綴足』上を読む③ 一宮駅宿泊 11回 『四篇の綴足』上を読む④ 一神戸の様子 12回 『四篇の綴足』上を読む⑤ 一妙夢の話 13回 『四篇の綴足』上を読む⑥ 一二十五挺橋の由来 14回 『四篇の綴足』上を読む⑦ 一肴売とのいさくさ 15回 『四篇の綴足』上のまとめ
授業概要	東花元成『四篇の綴足』を採り上げ、版本影印資料により読み進めます。本作品の着想元となった十返舎一九『東海道中膝栗毛』の本文とも対照させ、江戸語の諸相について観察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	影印資料に馴れるということを当面の目標として、授業前に読みの練習をしてください。また、授業後はしっかり概要を押さえながら読めるように、反復練習してください。
テキスト	影印資料を印刷して渡します
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	馴れさえすれば読むのはそれほど難しくはありませんので、根気強く読む練習をしてください。
評価方法	授業への参加度(50%)と課題レポートの作成(50%)とで総合的に評価します
参考文献	中山尚夫『十返舎一九研究』（おうふう） 芥子川律治『名古屋方言の研究』（泰文堂書店） 野村剛史『日本語スタンダードの歴史』（岩波書店）
備考	

講義科目名称：国語学演習 I B (10752)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	近世庶民の話し言葉について理解することをテーマとして、以下3点目標を定める。 I 近世版本の様式に馴れ、連綿体の文章が読めるようになる II 書かれてある意味が説明できるように読み込む III 発表者の読みを聴き自分なりの解説ができるように考えながら読む		
授業計画	初回	演習の説明	
	2回	『四篇の綴足』下を読む 一熱田の杜	
	3回	『四篇の綴足』下を読む 一境内の様子	
	4回	『四篇の綴足』下を読む 一熱田名物	
	5回	『四篇の綴足』下を読む 一一膳飯屋 前半	
	6回	『四篇の綴足』下を読む 一一膳飯屋 後半	
	7回	『四篇の綴足』下を読む 一追分	
	8回	『四篇の綴足』下を読む 一田舎爺との会話 前半	
	9回	『四篇の綴足』下を読む 一田舎爺との会話 後半	
	10回	『四篇の綴足』下を読む 一狂歌披露	
	11回	『四篇の綴足』下を読む 一川口屋休憩 前半	
	12回	『四篇の綴足』下を読む 一川口屋休憩 後半	
	13回	『四篇の綴足』下を読む 一川口屋休憩後の様子	
	14回	『四篇の綴足』下を読む 一芝居話の場面	
	15回	『四篇の綴足』下まとめ	
授業概要	東花元成『四篇の綴足』を採り上げ、版本影印資料により、受講生の発表を基に読み進めます。本作品の着想元となった十返舎一九『東海道中膝栗毛』の本文とも併せて読みます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業前に読みの練習をしてください。また、授業後はしっかり概要を押さえながら読めるように、反復練習してください。		
テキスト	影印資料を印刷して渡します		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	馴れさえすれば読むのはそれほど難しくはありませんので、根気強く読む練習をしてください。		
評価方法	授業への参加度(50%)と発表の成果(50%)とで総合的に評価します		
参考文献	中山尚夫『十返舎一九研究』（おうふう） 芥子川律治『名古屋方言の研究』（泰文堂書店） 野村剛史『日本語スタンダードの歴史』（岩波書店）		
備考			

講義科目名称：国語学演習ⅡA(10761)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ことばに関するテーマを選定し、グループや全体での共同作業を通して言語研究の方法を実践的に学びます。		
授業計画	第1回	前期 導入	
	第2回	チーム別の企画討論	
	第3回	レッスン1 「しりとり」の言語学	
	第4回	レッスン1 グループ学習 記事の選定	
	第5回	レッスン2 言葉の意味 記事の選定	
	第6回	レッスン2 グループ討論	
	第7回	レッスン3 言葉遊びの言語学 担当記事の要約とキーワード付け学習	
	第8回	レッスン3 グループ作業と発表 担当記事の要約とキーワード付け学習	
	第9回	レッスン4 曖昧な文	
	第10回	レッスン4 グループ学習と資料収集	
	第11回	レッスン4 資料整理と発表レジュメの作成	
	第12回	レッスン4 グループ別発表と討論	
	第13回	グループテーマの検討	
	第14回	テーマ別資料収集	
	第15回	グループ間で討論	
授業概要	演習生をチーム分けし、チームごとおよび全体での討論・作業を体験してことばの研究の基礎を身につけます。言語研究に関する一つの成果を、一冊の報告書にまとめてみましょう。新聞記事の学習と教科書の学習を前期は行います。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎回の演習で取り上げられる課題について資料整理をして考えを深めてください。また、研究室でグループワークをする時間を設けます。		
テキスト	『日本語を分析するレッスン』大修館書店 1, 500円+税 最初の演習時に指示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	参加者の話し合いでグループ別に担当テーマを決め、演習成果報告書を作成したいと思います。同じチームの仲間とお互いのスケジュールを調整し、また助け合って研究を進めるように心がけましょう。		
評価方法	演習への参加度、課題の作成内容・チームへの貢献度（100%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：国語学演習ⅡB（10762）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	国語学演習ⅡA(10761)に続いて、ことばに関するテーマを選定し、グループや全体での共同作業を通して言語研究の方法を実践的に学びます。
授業計画	<p>第1回 後期 導入 夏期課題の提出と確認</p> <p>第2回 チーム別の編集討論</p> <p>第3回 章別の修正作業1</p> <p>第4回 章別の修正作業2 グループ学習</p> <p>第5回 章別の修正作業3</p> <p>第6回 章別の修正作業4 グループ討論</p> <p>第7回 最終原稿の制作1</p> <p>第8回 最終原稿の制作2 グループ作業と発表</p> <p>第9回 出稿作業の確認</p> <p>第10回 テキスト レッスン14 漫才の言葉1 中川家 チュートリアル パイキング</p> <p>第11回 テキスト レッスン14 漫才の言葉2 サンドイッチマン パンクブーバー</p> <p>第12回 報告書 校正作業</p> <p>第13回 テキスト レッスン15 外国語と日本語1</p> <p>第14回 テキスト レッスン15 外国語と日本語2</p> <p>第15回 報告書の受け取りと発送</p>
授業概要	演習生をチーム分けし、チームごとおよび全体での討論・作業を体験してことばの研究の基礎を身につけます。言語研究に関する一つの成果を、一冊の報告書にまとめてみましょう。後期は報告書制作のための学習と編集作業を中心に行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の演習で取り上げられる課題について資料整理をして考えを深めてください。また、研究室でグループワークをする時間を設けます。
テキスト	『日本語を分析するレッスン』大修館書店 1, 500円＋税
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	参加者の話し合いでグループ別に担当テーマを決め、演習成果報告書を作成したいと思います。同じチームの仲間とお互いのスケジュールを調整し、また助け合って研究を進めるように心がけましょう。
評価方法	演習への参加度、課題の作成内容・チームへの貢献度（100%）
参考文献	
備考	



講義科目名称：図書館文化論演習A（10782）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
北口 己津子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	図書館の諸問題や図書館利用の最初の入り口となる絵本をテーマにする。その理解をはかり、授業内での話し合いを通じ個々人の問題意識を持つ。		
授業計画	第1回	前期オリエンテーション	
	第2回	図書館に関する昨年の出来事について	
	第3回	レポートの書き方	
	第4回	CiNii等の使い方	
	第5回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い①	
	第6回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い②	
	第7回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い③	
	第8回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い④	
	第9回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑤	
	第10回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑥	
	第11回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑦	
	第12回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑧	
	第13回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑨	
	第14回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑩	
	第15回	前期のまとめ	
授業概要	レポート執筆の基礎と図書館界で話題になっている出来事について発表を行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習・復習60分		
テキスト	プリント配布		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	話し合いには積極的に参加すること。		
評価方法	授業内での活動・個人課題の成果物（70%）、授業への参加度（発言・教員への質問等）（30%）		
参考文献			
備考	後期開講の図書館文化論演習Bと対をなす科目である。		

講義科目名称：図書館文化論演習B（10783）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
北口 己津子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	図書館の諸問題や図書館利用の最初の入り口となる絵本をテーマにする。その理解をはかり、個々人の問題意識を持つ。その問題意識を深めて卒業論文を書くことを目的とする。		
授業計画	第1回	卒業研究の進め方①テーマの決め方	
	第2回	卒業研究の進め方②スケジュールの立て方	
	第3回	卒業研究の進め方③書き進めるために	
	第4回	文献リストの作り方	
	第5回	卒業研究中間報告①	
	第6回	卒業研究中間報告②	
	第7回	卒業研究中間報告③	
	第8回	卒業研究中間報告④	
	第9回	卒業研究中間報告⑤	
	第10回	卒業研究中間報告⑥	
	第11回	卒業研究中間報告⑦	
	第12回	卒業研究中間報告⑧	
	第13回	卒業研究中間報告⑨	
	第14回	卒業研究中間報告⑩	
	第15回	後期のまとめ	
授業概要	各自の卒業論文中間報告で進める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習・復習60分		
テキスト	プリント配布		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生全員が卒業論文提出を目標とする。卒論は、図書館に関するもの、絵本に関するものどちらでもよい。		
評価方法	授業内での活動・個人課題の成果物（卒業論文・卒業制作）（70%）、授業への参加度（発言・教員への質問等）（30%）		
参考文献			
備考	前期開講の図書館文化論演習Aと対をなす科目である。		

講義科目名称：教育文化論演習 A (10791)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
村瀬 桃子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	教育に関して、まず基本事項をおさえた上で、各個人の興味関心に添いつつ、様々な角度から教育問題を考察できるようにしたい。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 前期のゼミの流れを確認する。	
	第2回	発表資料の書き方・発表の仕方 演習でのゼミの発表資料の書き方や発表の仕方などを確認する。	
	第3回	レポート・論文の書き方 短大を卒業する前に、レポートや論文の書き方の最低限のルールを知る（特に卒論・編入希望者は確実に）。	
	第4回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第5回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第6回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第7回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第8回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第9回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第10回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第11回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第12回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第13回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第14回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第15回	卒業論文構想発表 卒業論文の執筆を予定している者の構想を発表する。	
授業概要	前期は、教育に関する基本事項をおさえるため、全員で文献を読み解いていく（卒論を書く者は卒論の検討を行う）。発表は、基本的に個人とする予定である。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	検討文献を必ず前もって読む。発表前に自主的に準備を進めておく。日頃から、教育を中心とした社会問題について関心を持つようにする。		
テキスト	授業内に皆で文献候補を検討、決定した文献。絶版の場合はコピー。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミは学生による自治が基本。自ら課題を見つけ、学ぶ能力をつけた人を評価する。		
評価方法	発表の完成度（課題設定や分析は適切か等、70%）、演習への参加度（演習中の質問等の発言30%）		
参考文献	その都度紹介する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
村瀬 桃子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	教育に関して、まず基本事項をおさえた上で、各個人の興味関心に添いつつ、様々な角度から教育問題を考察できるようにしたい。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 後期の予定を確認する。	
	第2回	卒論構想発表① 卒論の構想について発表する（卒論希望者）。	
	第3回	卒論構想発表② 卒論の構想について発表する（卒論希望者）。	
	第4回	個人研究発表① 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第5回	個人研究発表② 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第6回	個人研究発表③ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第7回	個人研究発表④ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第8回	個人研究発表⑤ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第9回	個人研究発表⑥ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第10回	個人研究発表⑦ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第11回	個人研究発表⑧ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第12回	卒論中間発表① 卒論の進捗状況について、報告し、検討する。	
	第13回	卒論中間発表② 卒論の進捗状況について、報告し、検討する。	
	第14回	個人研究発表⑨ 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第15回	まとめ 1年間のゼミのまとめを行う。	
授業概要	後期は、それぞれの興味関心に添った文献等を読み進めていく予定である（卒論を書く者は卒論の検討を行う）。発表は、基本的に個人とする予定である。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	検討文献を必ず前もって読む。発表前に自主的に準備を進めておく。日頃から、教育を中心とした社会問題について関心を持つようにする。		
テキスト	授業内に皆で文献候補を検討、決定した文献。絶版の場合はコピー。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミは学生による自治が基本。自ら課題を見つけ、学ぶ能力をつけた人を評価する。		
評価方法	発表の完成度（課題設定や分析は適切か等、70%）、演習への参加度（演習中の質問等の発言30%）		
参考文献	その都度紹介する。		
備考			

講義科目名称：書道（10800）

授業コード：10801 10802

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	4	選択・教職必修（教科：国語）
担当教員			
我彦 芳柳			
開放(教養)			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 楷書・行書・草書・隸書・仮名の代表的な古典を臨書し、学内展示作品を作成 2. 篆書を学び雅印作成 3. 国語科の書写指導に必要な実技 4. 現代の書・生活の書・実用書の作成		
授業計画	第1回	用具・用材について	
	第2回	楷書の基本用筆確認	
	第3回	書写から書道入門	
	第4回	漢字の変遷と書体・楷書の成立	
	第5回	唐の四大家を学ぶ（1）孔子廟堂碑	
	第6回	唐の四大家を学ぶ（2）九成宮醴泉銘	
	第7回	唐の四大家を学ぶ（3）雁塔聖教序	
	第8回	唐の四大家を学ぶ（4）顔氏家廟碑	
	第9回	北魏の書を学ぶ（1）牛けつ造像記	
	第10回	北魏の書を学ぶ（2）鄭羲下碑	
	第11回	楷書の小階 隅寺心教	
	第12回	楷書の小階 隅寺心教	
	第13回	行書の特徴を学ぶ	
	第14回	行書の古典を学ぶ（1）蘭亭序	
	第15回	行書の古典を学ぶ（2）争坐位文稿	
	第16回	篆書を学ぶ 泰山刻石	
	第17回	日本の書三筆三跡を学ぶ	
	第18回	仮名の用筆法を学ぶ	
	第19回	平仮名と変体仮名を学ぶ	
	第20回	平仮名と変体仮名の単体・連綿を学ぶ	
	第21回	仮名の古典を学ぶ（1）高野切第三種	
	第22回	仮名の古典を学ぶ（2）高野切第一種	
	第23回	仮名の古典を学ぶ（3）寸松庵色紙	
	第24回	学内展示作品仕上げ	

	第25回 草書を学ぶ 真草千字文 第26回 隷書を学ぶ 第27回 漢字仮名交じりの書を学ぶ 第28回 学内展示作品の鑑賞 第29回 手紙文・実用書を学ぶ 第30回 書道史年表中心にまとめ
授業概要	漢字・仮名の変遷成立の理解を深め、基礎的実技能力を養う。
実務経験及び授業の内容	書道教室での実務経験及び小中高の書道展での審査経験を生かし、作品制作の指導を行う。
時間外学習	休日等を利用し、美術館・博物館・展覧会等の鑑賞に行くこと。
テキスト	必要に応じてプリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	1. 実技を中心とする積み上げ学習なので、講義を欠席しないこと。 2. 学内展示作品（修了作品）作成に費用2,000円位必要です。
評価方法	1. 作品の評価 2. 授業の参加度 3. 学内展示作品の作成
参考文献	古典法帖
備考	①書道道具(既存の物で可)を1回目から持参下さい。 ②用具・用材はさわらび利用

講義科目名称：伝統文化論（10910）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
岩原 真代			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	平安時代の貴族の生活文化や教養、風俗・習慣、生活信条を通して、『源氏物語』などの平安文学作品の成立背景を理解する。 現代とは相似点も相違点もある平安貴族のあり方と文学の発想を学ぶ。 また、現代まで続く日本の伝統文化の一例として、三大芸道の一つ、茶道の歴史と文化を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 伝統文化論導入</p> <p>第2回 桜の文学史（古典文学）</p> <p>第3回 桜の文学史（近現代文学）</p> <p>第4回 平安時代の儀礼と儀式文化</p> <p>第5回 平安時代の音楽―雅楽の世界―</p> <p>第6回 平安時代の音楽―雅楽の種類―</p> <p>第7回 平安時代の音楽―神楽歌・催馬楽―</p> <p>第8回 平安時代の音楽と文学―『源氏物語』における音楽の機能―</p> <p>第9回 平安時代の音楽と文学―『源氏物語』における楽器と作中人物造型―</p> <p>第10回 平安貴族の生活信条―九条殿遺誠を読む―</p> <p>第11回 平安貴族の生活信条―藤原師輔伝―</p> <p>第12回 伝統文化の継承と展開―日本の三大芸道、香道・茶道文化について―</p> <p>第13回 茶道の歴史</p> <p>第14回 茶道の歴史と文化</p> <p>第15回 茶道と文学</p>
授業概要	参考文献や配布資料、視聴覚資料を用いて、『源氏物語』を中心とした平安文学に見られる文化、音楽、教養、住環境、生活文化などから日本の伝統文化の基盤を理解します。また、伝統文化の発展と継承のあり方として、総合芸術である茶道の歴史と文化を学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃から意識的に日本の伝統文化に関する書物を読み、美術館、博物館に足を運び、年中行事や伝統芸能などに親しんで、教養を深めて下さい。
テキスト	プリントを使用する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『源氏物語』などの古典文学や史料を読解するためには、平安時代の習俗の知識や文化的背景、当時の感性を理解することが必要です。知りたい、という意欲を持って臨んでください。特に古典文学を専攻する方は履修することが望ましいです。
評価方法	レポート（90%）と授業への積極的な参加の度合い（10%）を以て評価する。
参考文献	小町谷照彦・倉田実編『王朝文学文化歴史大事典』笠間書院 山中裕・鈴木一雄編『平安時代の信仰と生活―平安時代の文学と生活―』至文堂 『新編日本古典文学全集 源氏物語①～⑥』小学館 桑田忠親『日本茶道史』河原書店 その他、授業中に紹介する。
備考	

講義科目名称：有職故実（10920）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択
担当教員			
田中 潤			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	有職故実とは、前近代の公家・武家社会において、政治・制度・儀式・法令・慣習など多様な分野におよぶ知識・先例と、それを研究する学問とされる。いわば、前近代の人々の衣食住の総体を規定してきた要素を学ぶものである。古代から伝えられてきた歴史資料や古典籍、あるいは博物館・美術館などに収蔵される美術品が生み出され、実際に用いられてきた様子を知る上で、有職故実の知識は不可欠である。この講義では、多方面にわたる有職故実の分野の中でも、公家・女房装束を中心に紹介し、実際の着装を通じて理解を深めることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（有職故実とはなにか）</p> <p>第2回 令和に伝えられた公家服飾（令和の即位礼の装束）</p> <p>第3回 大正・昭和・平成の即位の礼と装束</p> <p>第4回 日本古代服飾史①（飛鳥・白鳳時代）</p> <p>第5回 日本古代服飾史②（奈良時代・正倉院宝物にみる服飾）</p> <p>第6回 日本古代服飾史③（平安時代①：概論）</p> <p>第7回 日本古代服飾史④（平安時代②：文献資料にみる服飾）</p> <p>第8回 日本古代服飾史⑤（平安時代③：絵画資料に見る服飾）</p> <p>第9回 日本古代服飾史⑥（平安時代④：かさねの色目）</p> <p>第10回 日本古代服飾史⑦（平安時代⑤：有職織物）</p> <p>第11回 日本古代服飾史⑧（平安時代⑥：有職文様）</p> <p>第12回 日本古代服飾史⑨（装束の変遷と衣紋道）</p> <p>第13回 着装体験①</p> <p>第14回 着装体験②</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	配布資料とパワーポイントなどを用い、映像資料、着装などを踏まえながら理解を深める。
実務経験及び授業の内容	装束の着装指導や有職故実関係資料の整理で得た実務経験を踏まえて指導を行う。
時間外学習	日本古代の歴史の流れ確認し、「伝統的な」日本の衣装に目を留めよく観察すること。
テキスト	プリントを配布。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	着装や、個人・グループでも作業を行うので、積極的な参加を希望します。
評価方法	試験
参考文献	鈴木敬三『有職故実図典』吉川弘文館 1995
備考	



講義科目名称：民俗学概説(国) (10930)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
岩鼻 通明			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	この講義では、韓国の民俗文化をテーマとして取り上げ、その諸問題について、具体的事例を紹介しながら講義を進める。講義に際してはビデオ教材を活用する。		
授業計画	第1回	民俗学とは	
	第2回	民俗学の歩み	
	第3回	比較民俗学	
	第4回	韓国と儒教社会	
	第5回	韓国の親族組織	
	第6回	韓国の祖先祭祀	
	第7回	韓国の通過儀礼	
	第8回	韓国の年中行事	
	第9回	韓国の衣食住	
	第10回	韓国の民間信仰	
	第11回	韓国の民俗芸能	
	第12回	韓国の生業	
	第13回	韓国の宗教	
	第14回	韓国の伝統的町並み	
	第15回	日本・朝鮮半島・琉球列島の比較民俗	
授業概要	民俗学で扱う内容のうち、本講義では韓国における民俗文化を、日本の民俗文化と比較しながら講義を展開する。現代の韓国社会との関わりをテキストを通して学習する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	各地の博物館や資料館には、民具などの民俗学に関わる資料などが、しばしば展示されています。休日を利用して、それらの展示を観覧する習慣を身につけてください。		
テキスト	松本邦彦・岩鼻通明『異郷と同胞 日本と韓国のマイノリティー』開講時に百円で頒布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自己の故郷の年中行事や祭礼などに関心を持ってほしい。柳田国男らの基本的な文献は文庫本で出ている。板書は、なるべく整然と見やすい大きな文字で書くことにしたい		
評価方法	講義内容に関連した課題についての文献およびネット検索をふまえたレポート（出典は必ず明示すること）を学期末に提出することで、成績を評価する。		
参考文献	附属図書館にある韓国関係文献およびCiNiiで学術論文を検索して関連論文を読むこと。		
備考			

講義科目名称：山形の郷土資料と文学（10951）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
石黒 志保			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	山形の郷土をが育んできた文学、及びそれを生み出してきた土壌についての理解を深める。また郷土資料が保管されてきた経緯について、歴史的な視点を持ちながら、山形、特に米沢の風土について検討する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 山形、特に置賜地方の歴史と文化</p> <p>第3回 山形の歌枕と歌碑</p> <p>第4回 米沢の文学①－直江兼統の禅林文庫－</p> <p>第5回 米沢の文学②－和歌・歌論書の世界－</p> <p>第6回 米沢の文学③－藩校 興讓館の創設－</p> <p>第7回 米沢の文学④－藁科立沢「鶴城四時歌」－</p> <p>第8回 米沢の文学⑤－近世後期に文学「桜谷百首」－</p> <p>第9回 米沢の文学⑥－米沢商人のおくの小道行脚－</p> <p>第10回 米沢の文学⑦－「飯豊の山ぶみ」－</p> <p>第11回 近代図書館の成立①</p> <p>第12回 近代図書館の成立②－米沢図書館の開館－</p> <p>第13回 林泉文庫の世界－郷土史家 伊佐早謙－</p> <p>第14回 米沢の文学⑧－漢詩・漢籍の世界－</p> <p>第15回 米沢の文学⑨－明治文学の出版人 大橋乙羽と吾妻健三郎－</p>
授業概要	山形、特に米沢の文学作品、文学者を取り上げて講義を行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	休日を使い、郷土の博物館、図書館、資料館を見学すること
テキスト	毎講義、プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	米沢で大学生活を送っているみなさん、ぜひこの米沢が育んできた文学について触れてみてください。
評価方法	講義の感想メモ（毎回）とレポート提出
参考文献	
備考	

講義科目名称：現代文化論（10952）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
今井 瞳良			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	あるメディアから他のメディアへ移植される「アダプテーション」という現象から、現代文化を歴史的に読みときます。到達目標は以下の二つです。①アダプテーションという見方を理解する。②現代文化を歴史的な視点から相対的に捉える力をつける。		
授業計画	第1回	ガイダンス：アダプテーションとは何か	
	第2回	『ちはやふる 上の句』（2016年）を見る	
	第3回	漫画『ちはやふる』から青春映画『ちはやふる』へ	
	第4回	『君の名は。』・『ゴジラ』から『君の名は。』・『シン・ゴジラ』へ	
	第5回	『日本沈没』から『日本沈没2020』へ	
	第6回	ドキュメンタリー映画『東京オリンピック』（1965年）を見る	
	第7回	「東京オリンピック」から「東京オリンピック2020」へ	
	第8回	ライトノベルは「新しい」のか	
	第9回	ライトノベルとアニメ：『涼宮ハルヒの憂鬱』	
	第10回	「文豪」から「聖地巡礼」へ①：『文豪ストレイドッグス』と『文豪失格』	
	第11回	「文豪」から「聖地巡礼」へ②：『文豪とアルケミスト』	
	第12回	映画『伊豆の踊子』（1963年）を見る	
	第13回	『伊豆の踊子』から『伊豆の踊子』から『伊豆の踊子』へ、そして『伊豆の踊子』へ	
	第14回	まとめ	
	第15回	レポート構想発表会	
授業概要	アダプテーションという現象を考えることで、現代文化をただ「新しい」ものと見るのではなく、歴史の中に位置付けてみたいと思います。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で扱う作品は可能な範囲で目を通してください。		
テキスト	プリントを配ります。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生の関心に合わせて、可能な限り言及する作品を増やします。興味のある作品を今までとは異なる視点から考える機会にしましょう。授業中に意見を求めるので、積極的な発言を期待します。		
評価方法	授業の参加（10%）及び議論への貢献（20%）、レポート（70%）		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
備考			

講義科目名称：東洋思想（10960）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
小野 卓也			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>日本は昔から、インドや中国の文化（言語と論理、宗教と死生観、恋愛観や家族観など）を積極的に取り入れてきました。その結果、私たちの習慣やものの考え方の背景には、知らず知らずのうちにこうした国々の影響が多く残されています。</p> <p>この授業では、私たちの日常生活にひそむインドや中国からの影響を学び、その発想や捉え方の違いを、日本と比較して見ていきます。当然と思っていたことの背景にある未知の歴史や、それが当然ではない世界との比較から見えてくるものは何か、一緒に考えていきましょう。</p>		
授業計画	第1回	<p>日本語の中のインドの言葉 音写と意識のメリットとデメリット。梵文を書いてみよう</p>	
	第2回	<p>七福神の成立 インド・中国・日本の神様の違い。人は神仏に何を求めるのか</p>	
	第3回	<p>カレーライスの歴史 インドから日本への経路。外国文化の伝播と日本国内の広がり</p>	
	第4回	<p>無常について いろは歌と「もののあはれ」。ネガティブな捉え方とポジティブな捉え方</p>	
	第5回	<p>苦と解脱 四苦八苦から涅槃へ。悩み苦しみを乗り越えて幸せになる方法</p>	
	第6回	<p>善悪の基準 十悪業と四摂法。法律・倫理・美学・宗教でどこが異なるのか</p>	
	第7回	<p>自己とは何か コロナ禍で見失ってしまった自分を再構築するために</p>	
	第8回	<p>業と来世 輪廻と黄泉の国について。人は死んだらどうなるのか</p>	
	第9回	<p>世界の始まりと終わり 世界は単一か多元か。存在論と認識論をめぐって</p>	
	第10回	<p>先祖と神仏 餓鬼と御霊信仰。死者はどのように扱われるか</p>	
	第11回	<p>愛と慈悲 ラブスタイル類型論から分析する愛欲と慈悲と仁</p>	
	第12回	<p>心とは何か 心を整える心理学と唯識。身体の外に広がる心</p>	
	第13回	<p>身分と差別 カースト制度を擁護した人たち。差別はなぜなくなるのか</p>	
	第14回	<p>議論と論理 六師外道とアショーカ王。対立を乗り越える話し合いの進め方</p>	
	第15回	<p>仏教と女性 比丘尼教団の成立と今。男女平等はいかにして達成されるか</p>	
授業概要	<p>毎回テーマに沿って、インド・中国・日本、あるいはバラモン教・ヒンドゥー教・儒教・道教・仏教における考え方の違いを比較していきます。授業の最後に簡単な課題を出し、次回まで考えてきて、出席カードに書いてもらいます。優れた回答は発表します。</p>		
実務経験及び授業の内容	<p>講師はインド留学経験があり、そこでの見聞も授業中に適宜紹介していきたいと思っています。また禅宗寺院の住職、人権擁護委員、保護司、家庭教育アドバイザー、県男女共同参画推進員なども務めており、その実務経験に基づいた現代の問題にも触れます。</p>		
時間外学習	<p>授業の最後に出す課題は、自身の経験に照らして考えてきてもらう内容です。授業内容をもとに、自分の見方や考え方を整理してきてください。</p>		
テキスト	<p>プリントを配布しますので、穴をあけて綴じられるA4ファイルを用意してください。</p>		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>聞いてなるほどと思うだけでなく、それが自分の考え方にどのように関係してくるのかを考えてもらえるような心がけて進めていきたいと思っています。</p>		
評価方法	<p>毎回、授業の終わりに感想を書いてもらい、これを出席点とします。そのほかにレポートを2回書いてもらい、出席点80%、レポート20%で成績を評価します。</p>		
参考文献	<p>授業中に適宜紹介します。</p>		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
村瀬 桃子			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 現代における子ども・若者の問題や、教育問題について知る。 2. 2回の発表を通して、各自の興味のある問題について深く考え、自分の意見を伝える。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション この講義の内容について、説明する。</p> <p>第2回 貧困問題と教育 「相対的貧困率」をキーワードに、子どもの貧困問題について、現実を知り、どのような対策が必要か考える。</p> <p>第3回 奨学金の問題 主に大学生の奨学金の問題について、当事者として現状を知り、将来の奨学金制度をどうしていくべきか考える。</p> <p>第4回 若者の進路の問題 若者（主に大学生・短大生）の進路について知る。実際先輩の声（手記）を読むことで、近い将来の就職活動に備える。</p> <p>第5回 障がいをもつ子どもたちの就労問題 障がいを持つ子どもの就労問題について、現実と課題を知る。</p> <p>第6回 発達障がいの子どもたち 発達障がいとは、どのような特徴があるのかを知り、すべての子どもの学ぶ権利を保障するための手立てを考える。</p> <p>第7回 個人発表（新聞記事から気になる話題を発表） 自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。</p> <p>第8回 個人発表（新聞記事から気になる話題を発表） 自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。</p> <p>第9回 個人発表（新聞記事から気になる話題を発表） 自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。</p> <p>第10回 罪を犯した少年たち 少年犯罪は実際のところ、増え続けているのか、凶悪化しているのか。そして罪を犯した少年はどのような矯正教育を受けているのかについて知る。</p> <p>第11回 児童虐待の問題 年々増加しているといわれている児童虐待であるが、虐待された子どもを保護して終わりではない。保護されてからも、長い道のりであることを知る。</p> <p>第12回 幼児期の子ども 待機児童問題など、保育の「質」より「量」に目が向きがちだが、子どもたちに豊かな保育環境を整えるためには「質」の保証が欠かせない。ある園の保育内容を見ることで、子どもの育ちには、何が必要かを考える。</p> <p>第13回 いじめの問題 毎年のようにいじめによる自殺という痛ましい事件が起こっている。そもそもいじめはなくせるのか。ゼロにできなくても減らすことはできないのか。現場の取り組みを知り、考える。</p> <p>第14回 発表（テーマ自由） 授業で取り上げたテーマでも、それ以外でも、教育・子ども・若者の問題に関わることについて、興味のあることをパワーポイントで発表する。</p> <p>第15回 発表（テーマ自由） 授業で取り上げたテーマでも、それ以外でも、教育・子ども・若者の問題に関わることについて、興味のあることをパワーポイントで発表する。</p>
授業概要	ドキュメンタリー番組等を見ることで、現代の教育問題についてまず現状を知る。興味関心のあるテーマを調べ、パワーポイントを用い2回発表する（中間・最終）。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュース等を通じ、日頃から教育問題、子ども・青少年問題に関心を持つようにする。発表に向けて、自主的に準備を進めておく。
テキスト	毎回、プリントを配布、テキストは使用しない。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できるだけ新しい動きを取り上げたい。授業は考える「きっかけ」。現代の様々な教育問題に対する解決法に明確な「正解」はおそらくない。だからこそ各自で考え、発信できるようにしたい。
評価方法	毎回の感想（20%）と発表内容（2回分50%）、レポート（30%）で評価する。
参考文献	参考文献等は、その都度紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
原 淳一郎（21） 山田 彩起子（22）			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	原組：近世文書で使われる書体の読解力を身につける。いわゆる「くずし字」を判読する力を高める。 山田組：前半は同じテキストを使用し、後半はよりかな文字に特化したテキストを利用する。
授業計画	<p>第1回 くずし字読解のためのガイダンス、クラス分け</p> <p>第2回 江戸名所図会を読む－「かな」の練習（1）</p> <p>第3回 女今川を読む－「かな」の練習（2）</p> <p>第4回 ルビを振られた文書を読む－「かな」の練習（3）</p> <p>第5回 江戸時代の文体に慣れよう－「かな」の練習（4）</p> <p>第6回 手代の式目を読む－「かな」の練習（5）</p> <p>第7回 小まとめ</p> <p>第8回 宗門人別改帳を読む－「漢字」の練習（1）</p> <p>第9回 交通・旅行に関する文書を読む（1）－「漢字」の練習（2）</p> <p>第10回 交通・旅行に関する文書を読む（2）－「漢字」の練習（3）</p> <p>第11回 交通・旅行に関する文書を読む（3）往来手形など－「漢字」の練習（4）</p> <p>第12回 離縁状を読む</p> <p>第13回 結婚・離婚に関する文書を読む</p> <p>第14回 奉公人請状を読む</p> <p>第15回 借用証文を読む</p>
授業概要	近世文書（山田組はかな文字）のコピー版を配布し、予習を前提に、解説を加える形で、授業を進める。1回目のガイダンスでクラス分けを行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業の予習・復習をしっかりとすること。
テキスト	プリントを配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生にとっては、くずし字を読むのは、骨が折れることと思います。でも、少し辛抱すれば、ちよつとずつ読めるようになっていきます。予習、復習を大切にしてください。これらをしっかりとって授業に臨めば、3問目も解けるようになり、特優がとれるはずです。
評価方法	期末試験。全体で3問。1問は初見のかな文字。2問はテキスト終了範囲から1問。3問はテキスト未修範囲から1問。2問目がほぼ正解できていれば単位取得可能。あとは1問目、3問目の正答率で「特優」から「可」まで判断する。
参考文献	
備考	

講義科目名称：古文書学演習（11123）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	1、江戸時代の古文書の読解力を身につける 2、当時の庶民の生活や文化について理解する
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 授業のすすめ方と、くずし字に慣れる方法を解説します。</p> <p>第2回 江戸時代の版本を読む1ー往来物 実際にくずし字に触れて、読んでみましょう。読むコツをつかんで、次回から古文書の課題を提出してもらいます。</p> <p>第3回 江戸時代の版本を読む2ー往来物 前回の課題の提出と添削。ポイントの説明。次回の課題の提示。</p> <p>第4回 江戸時代の版本を読む3ー江戸のガイドブックと番付 前回の課題の提出と添削。ポイントの説明。次回の課題の提示。</p> <p>第5回 江戸時代の版本を読むー草双紙を眺めよう</p> <p>第6回 庶民の一生（1）通過儀礼に関する記録を読む 婚礼の献立の記録や子どものお祝いの記録などを読みます</p> <p>第7回 庶民の一生（2） 宗門改めと人別送り状</p> <p>第8回 庶民の一生（3） 離縁状</p> <p>第9回 庶民の一生（4） 若者仲間の記録を読む</p> <p>第10回 村の事件簿（1）村掟を読む 村で決めた定めごとを読み、江戸時代の村の様子を見てみます</p> <p>第11回 村の事件簿（2）村の訴訟とさまざまな願書 村の公務にかかわって作成された帳簿から、人相書きや村で起きた事件をとりあげます</p> <p>第12回 村の暮らし（1）村びとのお仕事 村びとの仕事や経済にかかわる文書、領収書や売買証文などを読みます</p> <p>第13回 村の暮らし（2）わざとまじない</p> <p>第14回 村の暮らし（3）楽しみの世界</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	古文書の読解を通して、江戸時代の庶民生活の諸相を浮き彫りにしたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	テキストの古文書は毎日少しずつ予習してきてください。トピックに関連する文献も紹介するので、できるだけお読みください。
テキスト	古文書の写真と古文書解読用テキストを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	くずし字の辞典があったほうが便利です。講義の最初にくずし字の辞典の種類と使い方について説明します。
評価方法	課題の提出（60%）と期末レポート（40%）で評価します。
参考文献	
備考	質疑応答等は、またはメールで行います。 この授業の履修は、古文書学を履修したことが条件となります。

講義科目名称：日本古代社会の歴史（11131）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
吉田 歆			
開放（教養）	高大連携開放科目	高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史における諸問題について講義を行う。基本的には通史的な解説を行いながら進めていくが、テーマ史的な視点から、現在の歴史研究の状況についても解説していく。それによってより深く古代史を理解することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 天皇号の成立</p> <p>第2回 日本国名の誕生</p> <p>第3回 飛鳥の都</p> <p>第4回 藤原京とは</p> <p>第5回 大極殿のルーツ</p> <p>第6回 律令国家の建設と都</p> <p>第7回 律令国家は誰のため</p> <p>第8回 平城京遷都</p> <p>第9回 アジアの都</p> <p>第10回 脇殿とは</p> <p>第11回 地方支配と国府</p> <p>第12回 郡司と郡家</p> <p>第13回 古代国家の東北進出</p> <p>第14回 東北地方の支配</p> <p>第15回 古代都市から中世都市へ</p>
授業概要	古代史に関係するテーマを詳しく解説する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	とくに使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	政治史だけにかたよらず、文化史など本当にいろいろな分野にも目を配りながら進めていくので、何か一つでも興味を持てるテーマを見つけてもらいたい。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）
参考文献	
備考	



講義科目名称：日本中世社会の歴史（11141）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
菌部 寿樹			
同時開講日本史概説2※	※高大連携開放科目	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 日本中世史の基礎的な知識を得ること。 2. 現代に立脚して長いタイムスパンで歴史をとらえる眼を養い、歴史的な思考方法を会得すること。
授業計画	<p>第1回 中世とは何か</p> <p>第2回 中世の権力者と天皇（上）</p> <p>第3回 中世の権力者と天皇（下）</p> <p>第4回 中世人の食生活（上）</p> <p>第5回 中世人の食生活（下）</p> <p>第6回 中世民衆の身分と名前（上）</p> <p>第7回 中世民衆の身分と名前（下）</p> <p>第8回 中世人の経済観念（上）</p> <p>第9回 中世人の経済観念（下）</p> <p>第10回 中世人の時間観念（上）</p> <p>第11回 中世人の時間観念（下）</p> <p>第12回 中世法の特質（上）</p> <p>第13回 中世法の特質（下）</p> <p>第14回 中世の刑罰と社会（上）</p> <p>第15回 中世の刑罰と社会（下）</p>
授業概要	通常の概説のように時系列を重視するのではなく、研究上の問題点や興味深い話題を提供する形で講義をします。1～2回の講義で1つのテーマが完結する形で授業をすすめます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	講義後、レジュメに示した参考文献を読んで、理解を深めて下さい。
テキスト	必要に応じて、プリントや参考資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	一方通行とならない講義を心がけますので、積極的に授業に参加してください。また毎テーマ終了後に小アンケートを実施します。
評価方法	期末レポート（90%）、小アンケート[記名記載]による評価（10%）
参考文献	毎回、講義内容に即した参考文献を示します。
備考	

講義科目名称：日本近世社会の歴史（11151）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 現代社会を理解する上で歴史的なものの見方が欠かせないことを理解できるようになる。 2. 問題に関心を持って日本史を考えることができるようになる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 日本近世史とは何か 歴史学上の地域区分や時代区分について説明し、日本や近世といった枠組みを問い直します</p> <p>第2回 世界のなかの近世日本（1） 東アジアのなかの日本 日本列島の歴史を、東アジアの広がりの中で考えてみます。</p> <p>第3回 世界のなかの近世日本（2） 蝦夷地をとりまく北方の交易世界</p> <p>第4回 世界のなかの近世日本（3） 江戸時代の対外関係 国境はどのようにつくられるのか 江戸時代の日本をとりまく国際的な環境について検討します。</p> <p>第5回 近世の支配体制（1） 江戸時代の統治の仕組みと社会制度</p> <p>第6回 近世の支配体制（2） 近世の統治の理念</p> <p>第7回 近世の民衆運動（1） 百姓一揆の作法</p> <p>第8回 近世の民衆運動（2） 百姓一揆の思想（百姓一揆をささえる社会規範と集合心性）</p> <p>第9回 近世の文化の基盤（1） 近世の支配体制と文字</p> <p>第10回 近世の文化の基盤（2） 江戸時代の読み書き能力と文字の文化</p> <p>第11回 近世の村と地域（1） 村の掟と刑罰</p> <p>第12回 近世の村と地域（2） 国訴と郡中議定－近世後期の地域社会</p> <p>第13回 近世の自然と社会</p> <p>第14回 近世の都市</p> <p>第15回 近世の特質 まとめ</p>
授業概要	日本近世史の諸問題について、講義します。通史的な概説や、政治史・経済史・文化史といった、分野ごとの解説は行わず、研究上の争点や近年注目されているトピックを取り上げて講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で取り上げた文献等を図書館で借りて読むようにこころがけてください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。資料はTeamsのファイルに入れます。あらかじめダウンロードしてください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業の理解度をはかるために、コメントシートを毎回提出してもらいます。コメントシートに記載する内容の詳細は、授業内のほか、Teams内で指示することもあります。質問等は、LINEまたはメールでも受け付けます。積極的に質問してください。
評価方法	期末レポート60%、コメントシートによる評価40%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
原 淳一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業の目的は3つある。第1に、歴史に親しんでもらうこと、第2に、文化史とはいかなる学問なのか知ってもらうこと。第3に、自分達が生まれた「日本列島」（「日本」とは限らない）がいかなる歴史を歩んできたかを認識してもらうこと、またはその手がかりを与えることである。本授業ではあまり時代にこだわらず、現代社会とつながる問題意識で多角的な歴史像を紹介したい。歴史学は記憶の学問ではない。考える学問である。ひとつの具体的事実が、どのような社会的背景から引き起こされたのか、私の力の及ぶ限り説明していきたい。</p>
授業計画	<p>第1回 史学とは？文化史とは？民俗学とは？文化人類学とは？</p> <p>第2回 歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観）</p> <p>第3回 歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観）</p> <p>第4回 稲作の起源と日本人起源論</p> <p>第5回 柳田國男と日本民俗学（ビデオ）</p> <p>第6回 いくつもの日本（東と西の日本文化）</p> <p>第7回 いくつもの日本（北と南の日本文化）</p> <p>第8回 日本国の成立と「日本人」</p> <p>第9回 伊波普猷と沖縄学（ビデオ）</p> <p>第10回 被差別と伝統文化</p> <p>第11回 都市と農村（太閤検地と徳川吉宗・柳田國男・柳宗悦）</p> <p>第12回 国家と統計・調査（『菊と刀』、太平洋戦争史、外国人から見た日本、西洋と日本の差異）</p> <p>第13回 日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』…）</p> <p>第14回 日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』…）</p> <p>第15回 日本人論の展開（『代表的日本人』、『茶の本』・『東洋の理想』、『武士道』）</p>
授業概要	<p>日本文化について様々に思考してきた先人達の書籍を紹介しながら、①日本人と日本国がいかに多様であるか、ということ、②現在の我々にとって常識であることが、必ずしも過去には常識ではないこと、などを知って貰い、受講生各自が、③日本とは何か、日本人とは何か、日本の文化とは何か、ということについて多様な視点から思索してもらう機会とする。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞を通じて、積極的に情報収集し、日本人、日本国、日本の文化について主体的に考えること</p>
テキスト	<p>すべてプリントを配布します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>できうる限り色々な著書を読んだり原史料に触れる機会をつくりたいと思います。歴史家、思想家、宗教家などの主張を紹介した際には、できうる限りその著書（現代語訳でもよいので）を読んでください。ある地域の話をする場合にはその場所をしっかりと認識してください。固有名詞や専門用語を登場させる場合には耳だけで聞き流さないでください。ちょっと地図帳を開いたりインターネットで調べるだけでもきっと違います。</p>
評価方法	<p>数回（6回程度）の課題で評価します。それぞれ4段階に評価し、平均をとります。その内容の高度さはもちろん、いかに講義中に自分の頭を使って考えたかが伝わるような主体的な取り組み方が窺われるものを評価します。</p> <p>約6回中提出回数が、3回以上（可）、5回以上（良）、6回以上（優）を目安としますが、内容によって1段階上下させることがあります。これは、ただ名前を書いて提出する人、あるいは1行程度しか書かない人と、しっかり考えて書いてくれた人と差をつけるための措置です。</p>

参考文献	佐々木高明『日本文化の多様性』（小学館、2009）をはじめとして、様々な文献、研究を紹介します。興味を抱いたものは是非図書館で手に取ってみてください。
備考	

講義科目名称：視覚文化論（11171）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. マンガならびにアニメを研究対象にした視覚文化作品の分析の方法論を学び、実際に作品分析を行う。 2. 表象文化の研究におけるさまざまな学際的なアプローチについて理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マンガ／アニメと教育</p> <p>第3回 マンガ／アニメの歴史（論）</p> <p>第4回 マンガと文学・ライトノベル</p> <p>第5回 マンガ表現論とその「歴史」</p> <p>第6回 キャラクター論</p> <p>第7回 マンガ／アニメとジェンダー</p> <p>第8回 映像・芸術としてのマンガ</p> <p>第9回 マンガ／アニメの物語論</p> <p>第10回 産業としてのマンガ／アニメ</p> <p>第11回 同人誌と同人文化</p> <p>第12回 マンガ／アニメと観光</p> <p>第13回 マンガとミュージアム</p> <p>第14回 マンガ／アニメの海外受容</p> <p>第15回 まとめ マンガ／アニメ研究における学際性</p>
授業概要	マンガ／アニメの特性とその文化的変容について学際的視点から講義するとともに、マンガ／アニメ作品の分析のために必要な理論・方法論を概観し、さらに実際の作品分析をワークショップ形式で行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	いくつかの章ごとに課題の提出を課します。マンガやアニメ作品の購読・視聴において、意識的に批評的精神をもって臨んでください。自分の購読・視聴したマンガ・アニメ（TV／劇場版）作品について、記録と簡単なレビューを残しておくことを求めます。
テキスト	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編著『マンガ研究13講』、水声社、2016年、3000円（本体価格。仕入価格により若干の値段変動あり）、購入方法等については講義中に指示します。その他の資料については適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題提出などを通して理論的／分析的思考を養ってもらおうとともに、参加型の授業形式を複数回取り入れ、議論を通じて広く理解を深めてもらおうと考えています。
評価方法	授業中の提出課題40%、期末レポート60%。
参考文献	小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [増補改訂版] アニメを究める9つのツボ』、現代書館、2014年。小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [応用編] アニメを究める11のコツ』、現代書館、2018年
備考	